

マネジメント研究科 マネジメント研究科 専門職学位課程 (2010年度入学)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■アドバンスト科目	企業の社会的責任と倫理 武田 寛 他	2学期	1	2	1
	地域づくり総論 城戸 宏史	2学期	1	2	2
	公共経済学 井原 健雄	1学期	1	2	3
	マーケティング戦略 未定		1	2	
	会社法 高橋 衛	2学期	1	2	4
	知識マネジメント 越出 均	1学期	1	2	5
	管理会計 望月 恒男	集中	1	2	6
	パブリック・マネジメント 永津 美裕	1学期	1	2	7
	財務会計 任 章	1学期	2	2	8
	リスク管理 未定		2	2	
	地域産業 柳井 雅人	2学期	1	2	9
	国際ビジネス・スキル 山口 実	1学期	1	2	10
	ロジスティックス 藤村 幸弘	集中	2	2	11
	ビジネス・システム 北 真収 他	1学期	2	2	12
■エグゼクティブ科目	ベンチャー・ビジネス 越出 均	1学期	1	2	13

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■エグゼクティブ科目	国際経営 晴山 英夫	2学期	1	2	14
	戦略的提携と事業創造 林 秀美	1学期	2	2	15
	フィナンシャル・インベストメント 武田 寛	1学期	2	2	16
	中国企業論 王 効平	1学期	2	2	17
	中国ビジネス 高橋 基人	1学期	2	2	18
	環境政策 垣迫 裕俊	1学期	2	2	19
	医療マネジメント 舟谷 文男	1学期	2	2	20
	福祉マネジメント 芳賀 祥泰	1学期	2	2	21
	プロジェクト・マネジメント 片山 憲一	1学期	2	2	22
	開発管理 大津留 榮佐久	2学期	2	2	23
	ものづくりの安全管理 未定		2	2	
	新事業開発と知的財産権 城戸 宏史 他	1学期	2	2	24
	ビジネス中国語 松下 丹紅	2学期	2	2	25
	自治体政策 吉村 弘	2学期	2	2	26
	NPO/NGO特論 奥田 知志	2学期	2	2	27

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■エグゼクティブ科目	モノづくり競争力の強化 雨澤 政材	2学期	1	2	28	
	ソーシャル・ビジネス 松永 裕己 他	2学期	1	2	29	
	環境ビジネス 松永 裕己	1学期	1	2	30	
	公会計 未定		1	2		
	医療経済 舟谷 文男	2学期	1	2	31	
	社会保障 杉原 好則	2学期	1	2	32	
	自治体経営 永津 美裕	2学期	1	2	33	
	実践マーケティング戦略 丸田 秀一郎 他	2学期	2	2	34	
	地域起業 小嶋 寿見子	1学期	2	2	35	
	イノベーション・マネジメント 北 真収	1学期	2	2	36	
	基礎中国語 王 占華	1学期	2	2	37	
	■プロジェクト研究科目	グループ・ディスカッションI 専任教員	1学期	1	2	38
		グループ・ディスカッションII 専任教員	2学期	1	2	39
		プロジェクト研究I 専任教員	1学期	2	2	40
プロジェクト研究II 専任教員		2学期	2	2	41	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■ベーシック科目	マネジメント総論 齋藤 貞之	1学期	1	2	42
	経営戦略 高橋 秀直	1学期	1	2	43
	マーケティング 米谷 雅之	1学期	1	2	44
	アカウンティング 任 章	1学期	1	2	45
ファイナンス 内田 交謹	2学期	1	2	46	
人材マネジメント 福井 直人	2学期	1	2	47	
組織とリーダーシップ 北 真収 他	2学期	1	2	48	

# 企業の社会的責任と倫理【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程, 広瀬 隆明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

前半(①~⑥)は、企業の社会的責任(以下CSR)と倫理について、基礎的な知識のほか、企業が社会的責任を果たす上での具体的な実践方法、社会的責任報告書(CSR報告書)を題材にした事例研究や企業の実務者による解説、会社法や金融商品取引法における内部統制に関する規定との関連等を扱う。

後半(⑦~⑯)は、倫理について学ぶ。日本の伝統的な経営思想は、儒教や仏教に基づくものが多く、これらは永続が求められる現代に適合する可能性が高いので、東洋の道義と西洋の倫理の両方を学ぶ。日々の実践に活かせるように、具体的な事例に基づいて学ぶ。またクラス・ディスカッションを通じて、お互いの気づきを共有化する。

## 教科書 /Textbooks

前半は、各回レジュメを配布する。  
後半は、授業中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

『CSR入門講座』1~5巻(2005年)日本規格協会  
白鳥・荻原(2005年)『CSRが良くわかる本』秀和システム  
岡本享二(2005年)『CSR入門』日経文庫  
環境管理システム研究会(2008年)『中小企業の社会的責任経営』西日本新聞社  
梅津光弘(2008年)『ビジネスの倫理学』丸善  
マイケル・サンデル(2010年)『これからの「正義」の話をしよう』早川書房  
渋沢栄一(2010年)『現代語訳 経営論語』ダイヤモンド社  
稲盛和夫(2007年)『人生の王道 西郷南洲の教えに学ぶ』日経BP社ほか

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業の社会的責任(CSR)とは何か、なぜ今CSRなのか  
【持続可能性】【メセナ】【コンプライアンス】【コーポレート・ガバナンス】
- ② 各国におけるCSRの普及とCSRに関する基準・規格・ガイドライン【GRI】【ISO】
- ③ CSRとステークホルダー(利害関係者)【企業行動憲章】
- ④ CSR報告書(1)国内企業のCSRへの取組みを考える
- ⑤ CSR報告書(2)学生による事例発表
- ⑥ 企業のCSR責任者による実務における取組みの紹介
- ⑦ 環境会計、CSR会計【環境保全コスト】【環境保全効果】【環境保全対策】
- ⑧ 社会的責任投資(SRI)【スクリーニング】【株主行動】【コミュニティ投資】
- ⑨ 倫理概観【倫理】【道義】【実践倫理】【経営思想】
- ⑩ 東洋の道義(1)ディスカッションI  
【稲盛和夫】【敬天愛人】【西郷隆盛】【南洲翁遺訓】【利他】【真心】【立志】
- ⑪ 東洋の道義(2)【公共性】【自覚性】【共生】【弱さの意味】【文明と人間】【永続】
- ⑫ 東洋の道義(3)ディスカッションII  
【渋沢栄一】【経営論語】【道徳経済合一説】【義】【利】【アダム・スミス】
- ⑬ 西洋の倫理(1)【功利主義】【ベンサム】【義務論】【カント】【美德】【アリストテレス】
- ⑭ 西洋の倫理(2)ディスカッションIII  
【正義】【共通善】【マッキンタイア】【サンデル】【コミュニタリアニズム】
- ⑮ 総合：経営の目的【徳づくり】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

前半(①~⑥)50%、後半(⑦~⑯)50%を合算して評価する。  
前半は、授業への参加姿勢(15%)、発表・ディスカッション(20%)、課題レポートの内容(15%)などをもとに総合的に判断する。  
後半は、クラスへの貢献度(15%)と課題の評価(35%)の合計である。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

# 企業の社会的責任と倫理 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 地域づくり総論【夜】

担当者名 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

わが国は既に人口減社会に突入しており、経済活力の低下が深刻化しつつある。とりわけ、地方における経済活力の低下は極めて深刻な状況となっている。そのため、これまで以上に地域づくりや地域産業振興への関心が高まっている。しかしながら、従来の行政中心の手法には限界があり、行政の枠を超えたマネジメントのもとでの地域づくりや地域産業振興が求められている。そこで本講義では、行政の枠を超えた地域づくりのケーススタディや地域づくりのリーダーとのディスカッションにより、様々な担い手によって実行される地域づくりに必要な戦略やマネジメント、とりわけ「コラボレーション」や「合意形成」のあり方について学ぶものとする。なお、本講義は2コマ連続の隔週開講とする。

## 教科書 /Textbooks

その都度、指示します（基本はプリント配布）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

塩沢由典・小長谷一之『まちづくりと創造都市 - 基礎と応用 - 』晃洋書房  
増田直紀『私たちはどうつながっているのか』中公新書  
原科幸彦『市民参加と合意形成』学芸出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①、②地域を景観とデータから読み取る  
【地域の現状認識の確認：高齢化・都心空洞化・人口減少、消費低迷、下流化】  
【ディスカッション：10年後の地域のかたち】
- ③、④地域資源とソーシャル・キャピタル  
【人的ネットワーク、コラボレーション、リーダーシップ、外部マネジメント】  
【ディスカッション：地域づくりのために誰とつながるべきか？】
- ⑤、⑥地域づくりのケーススタディ1  
【福岡県みのう地域：農村、農業、ツーリズム、自然、芸術】
- ⑦、⑧地域づくりのケーススタディ2  
【九州地域：産業振興、半導体産業、クラスター、産学連携】
- ⑨、⑩地域づくりにおけるリーダーの資質と今後の地域マーケティング  
【ディスカッション：地域づくりにおけるリーダーとは？】  
【地域マーケティング、ソーシャルメディア、ICT】
- ⑪、⑫市街地再開発を考える（八幡地区を事例に）  
【市街地再開発、再開発組合、都市計画、コミュニティ、合意形成】  
【ディスカッション：どのように地域で合意形成すれば良いのか？】
- ⑬地域づくりプロジェクトの提案（どんな地域資源を生かして誰とつながるのか）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

地域づくりプロジェクトの提案レポートを中心に、ディスカッションに対する貢献度を加味して総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 公共経済学【夜】

担当者名 井原 健雄 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

昨今、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に基づき、高速道路会社および機構により「高速道路料金の引き下げ計画」が策定され、その具体的な実施が全国各地で展開され、さまざまな問題が顕在化している。本講義では、このような状況に配慮して「高速道路料金の大幅値下げに伴う影響」などを考察し、その「説明責任」(Accountability)を誰がどのように果たすべきかについての正しい理解と認識を深めることを目的とする。換言すれば、本講義では、公共部門の多様な諸政策を経済学的な観点から捉えることにより、公共政策の形成に活用できる経済学的思考の養成を図るものである。したがって、公共政策を評価するための「費用便益分析」(Cost-Benefit Analysis)の基礎的理解の深化を図るとともに、その有効範囲と限界についても正しく理解できる能力の向上を意図するものである。

## 教科書 /Textbooks

井堀利宏(2004)『基礎コース 公共経済学』新世社  
山内弘隆・上山信一編(2003)『パブリック・セクターの経済・経営学』NTT出版

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

ステイグリッツ(2003)『公共経済学第2版 上巻』東洋経済新報社  
中村英夫編(1997)『道路投資の社会経済評価』東洋経済新報社、ほか。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① プロローグ(政策と費用便益分析)  
【政策、費用便益分析の目的、役割、歴史】
- ② 費用便益分析の基礎1  
【費用便益分析のミクロ経済学】
- ③ 費用便益分析の基礎2  
【費用、便益の評価、割引現在価値】
- ④ 費用便益分析の基礎3  
【社会的割引率、純便益法、費用便益比率法】
- ⑤ 政策評価事例研究1  
【道路整備事業の評価、利用者便益】
- ⑥ リスク・不確実性  
【リスク・プレミアム、リスク評価】
- ⑦ 政策評価事例研究2  
【空港事業の評価、港湾事業の評価】
- ⑧ チームプロジェクト1  
【ガイダンス、政策分析の設計】
- ⑨ 仮想評価法(CVM)と旅行費用法(TCM)  
【使用価値と存在価値、仮想評価法、旅行費用】
- ⑩ 政策事例研究3  
【ごみ減量政策の評価】
- ⑪ チームプロジェクト2  
【政策分析対象の政策、評価法の経過報告】
- ⑫ 費用効果分析  
【抱絡分析法】
- ⑬ 政策事例研究4  
【PFI、市場化テスト】
- ⑭ 費用便益分析の有効範囲と限界  
【効率性と公平性、政策評価の客観性】
- ⑮ チームプロジェクト発表  
【政策評価のプレゼンテーション、ディスカッション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(20%)、期末試験(50%)、課題に対するレポート・プレゼンテーション(20%)、授業に対する参加度(10%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。



# 公共経済学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 会社法 【夜】

担当者名  
/Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。この講義では、会社のうち株式会社を中心に、会社のガバナンスやファイナンス・M&A等に関する法制度を説明します。

## 教科書 /Textbooks

初回の授業で指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション
- ②会社法の目的と株式会社の基本構造 ( 1 )
- ③会社法の目的と株式会社の基本構造 ( 2 )
- ④経営者の義務と責任 ( 1 )
- ⑤経営者の義務と責任 ( 2 )
- ⑥経営の監督機関
- ⑦株式会社の資金調達 ( 1 )
- ⑧株式会社の資金調達 ( 2 )
- ⑨株式会社の会計
- ⑩株式会社の設立
- ⑪株式会社の組織再編
- ⑫企業買収
- ⑬会社グループの法規制 ( 1 )
- ⑭会社グループの法規制 ( 2 )
- ⑮まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素のクラスへの貢献度、課題、期末試験等に基づき、総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 知識マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義は知識の共有・活用を組織的に展開するナレッジマネジメントと共に、知識をイノベーションの源泉とする知識創造について検討を加え、知識社会の経営、管理について習得することを目指す。有益な知識を提供し合い、相互に活用することで知識生産性の向上を志向するマネジメントを検討しながら、他方ではイノベーションに必要な新しい知識の創造についても取り上げ、新規事業やビジネスモデルの創出、製品・技術の開発などに不可欠な「場」の議論、ワークスタイルの分析・設計などを通して知識経営の実践力を高め、知識社会のリダ-像を明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

越出均『情報と知識のマネジメント』、創成社  
 國領・野中・片岡『ネットワーク社会の知識経営』、NTT出版  
 野中・竹内『知識創造企業』、東洋経済新報社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 知識社会の到来  
【収穫逓増のプラットフォーム】
- ② 知識ネットワーク  
【企業の実践コミュニティ】
- ③ 知識経営の基礎  
【知識マネジメントの要諦】
- ④ 知識創造経営  
【SECIモデル】
- ⑤ 知識経営の実際  
【ゲストに学ぶ知識経営】
- ⑥ 知識イノベーション  
【異なる知のマネジメント】
- ⑦ 知のコラボレーション  
【顧客とのリレーションシップと価値創出】
- ⑧ 失敗の「知」  
【体験的学習の生かし方】
- ⑨ 「知」の伝承  
【場の共有化と技能習得】
- ⑩ 「知」のデジタル化  
【技術思考による業務改革】
- ⑪ 営業のナレッジ共有とスキルアップ  
【可視化のマネジメント】
- ⑫ 知識社会のリダ-シップ  
【CKOの役割】
- ⑬ 地域の「知」をマネジメントする  
【商店街・地場産業の集積知、知的触発】
- ⑭～⑮  
自社における知識ビジネスと知識経営についての考察、発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションに対する貢献度と課題に対するレポート評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

# 知識マネジメント 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 管理会計【夜】

担当者名 /Instructor 望月 恒男 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

管理会計は、企業の経営管理者の意思決定に有用な情報を提供する会計情報システムである。本講座では、まず、伝統的な管理会計の領域である業績管理会計および意思決定会計における理論と技法について基礎的知識を習得してもらう。その上で、管理会計の新しい領域である戦略的管理会計における理論と技法について学ぶことにより管理会計全般に関する知識・理解を深めていく。なお、各演習では受講生に事例発表をしてもらうので、受講に際しては積極的な姿勢を期待したい。

## 教科書 /Textbooks

岡本・尾畑・廣本・挽著『管理会計（第2版）』中央経済社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

加登・李著『ケースブック・コストマネジメント』新世社  
櫻井通晴著『管理会計（第4版）』同文館出版  
山本・小倉・尾畑・小菅・中村編著『スタンダードテキスト管理会計論』中央経済社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション：本講座の領域と目的、成績評価の方法について  
【オリエンテーション】【原価計算】
  - ②管理会計の概説：管理会計の体系について  
【業績管理会計】【意思決定会計】【戦略的管理会計】
  - ③業績管理会計1：短期利益計画とCVP分析について  
【変動費】【固定費】【CVP分析】
  - ④業績管理会計2：予算管理システムについて  
【予算編成】【予算統制】【予算管理の人間の側面】
  - ⑤業績管理会計3：事業部制会計について  
【責任会計】【ROI】【残余利益】
  - ⑥演習1：業績管理会計事例分析（受講生による事例発表）  
【予算管理】【業績評価システム】
  - ⑦意思決定会計1：意思決定に必要な原価概念について  
【特殊原価概念】【埋没原価】【機会原価】
  - ⑧意思決定会計2：業務的意思決定について  
【差額原価収益分析】【関連原価】【無関連原価】
  - ⑨意思決定会計3：設備投資の意思決定モデルについて  
【回収期間法】【NPV】【IRR】
  - ⑩演習2：意思決定会計事例分析（受講生による事例発表）  
【業務的意思決定】【設備投資の意思決定】
  - ⑪戦略的管理会計1：伝統的原価管理と原価企画について  
【標準原価管理】【戦略的コスト・マネジメント】【源流管理】【品質原価】
  - ⑫戦略的管理会計2：ABC(活動基準原価計算)とABM(活動基準管理)について  
【活動】【コスト・ドライバー】【価値連鎖】
  - ⑬戦略的管理会計3：BSC(バランスト・スコアカード)について  
【ビジョンと戦略】【戦略マップ】【KPI】
  - ⑭演習3：戦略的管理会計事例分析（受講生による事例発表）  
【戦略的管理会計】
  - ⑮演習4  
【総まとめ】
- ※なお、受講生の理解度を高めるために、随時、各テーマにかかわる事例や計算例を取り上げる予定であるので、受講者は電卓を持参されたい。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（授業への参加姿勢、発言、課題レポート等）30%、演習での発表30%、期末試験40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# 管理会計【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## パブリック・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

国、地方ともに財政難に直面するわが国では、従来の行政を中心とする公共経営の限界が明確になりつつあり、90年代後半から新たな行政手法としてNPM（ニュー・パブリック・マネジメント）の導入が推進されている。顧客主義に基づき行政の経済性や効率性を重視するNPMは一定の成果をあげているが、NPOなどの市民セクターによる新しい公共の担い手など多様な主体による公共経営のあり方が模索されている。そのため、NPMの理論や特性、行財政改革手法、公共の担い手としての職業倫理等を学び、外郭団体や公益団体まで含めた公共経営やNPMを超えた福祉や教育の分野などでの市民セクターとの地域協働による新しい公共空間の創造の展望を探る。

## 教科書 /Textbooks

授業の都度、資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

大住荘四郎(2002年)『パブリック・マネジメント』日本評論社  
分権型社会に対応した地方行政組織の刷新に関する研究会(2005年)『分権型社会における自治体経営の刷新戦略』P・F・トラッカー『非営利組織の経営』(1991年)ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① パブリックマネジメント総論I  
【パブリックセクターの特性、歴史的経緯、社会的変化】
- ② パブリックマネジメント総論II  
【公共セクターの役割、公共セクターの職業倫理】
- ③ パブリックマネジメント総論III  
【NPMの理論背景と基本的考え方】
- ④ 課題発表、議論  
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 公益法人・NPO制度、地域協働の取り組み  
【NPO、自治組織など市民セクターとの協働】
- ⑥ パブリック組織の組織・人材マネジメント  
【わが国の人事制度の特徴】
- ⑦ パブリック組織の財政の仕組みI  
【国・地方の予算・決算制度】
- ⑧ パブリック組織の財政の仕組みII  
【国・地方の財政分析】
- ⑨ パブリックサービスの改革手法I  
【PPP】【民間委託】
- ⑩ パブリックサービスの改革手法II  
【独立行政法人】
- ⑪ パブリックサービスの改革手法III  
【指定管理者制度】
- ⑫ 課題発表、議論  
【学生による意見交換、論議】
- ⑬ パブリックサービスの改革手法IV  
【PFI】【市場化テスト】
- ⑭ パブリックサービスの改革手法V  
【第三セクター・外郭団体】
- ⑮ まとめ  
【多様な主体による【新しい公共空間の構築】】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# パブリック・マネジメント【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 財務会計【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

ベーシック科目であるアカウンティングの知識を基に、本講座では財務会計領域の知識を積み上げ、意思決定、証券市場、さらには会計プロフェッションによる情報保証と担保責任の問題を、末広がりな考察対象に加えてゆく。本講座は慣習的な「会計の講義」を展開することを意図するものではない。むしろ、刻々と変化するビジネス環境の下で、意思決定者は会計情報をいかに利用し、自らの行動を選択するものが、そうした事柄を自発的に考えさせる機会を提供する。教員は、履修者が自らの会計的視点を確立するためのファシリテーターとしての役割を果たすことであろう。

## 教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS水準の企業開示を理解するための諸論点～』  
(初回授業時に、無償にて最新版を配布する)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

田中建二著『財務会計入門』中央経済社(但し購入は任意)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ベーシックの「アカウンティング」講座の応用編として、主として以下のコンテンツに関わる理解を深め、各々モジュールにして組み立て、財務会計全般の知識の体系化を図る(プレゼンテーションの時間などを要するため、講義順は変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座でカバーされる領域と目的、課題等について。

【オリエンテーション】

②財務諸表書式の連関関係について：未実現損益の処理と包括利益の表示など。

【財務諸表のフォーマット】

③キャッシュフロー計算書の作成とその分析方法について。

【キャッシュフロー】

④利益操作の意図と報告利益品質について。

【アーニングズ・マネジメント】

⑤SFAS、IFRS等のGAAPのディテールについて。

【GAAP】【IFRS】【SFAS】

⑥財務諸表分析とその応用：企業価値評価への展望。

【財務諸表分析】

⑦(英文)アニュアル・レポートのコンテキストの理解。

【アニュアル・レポート】

⑧SEC行政処分事例の実際について。

【SEC】

⑨財務諸表の信頼性保証とリスクについて。

【監査】

⑩バランスシートと会計的論点について(減損会計、時価会計等)。

【B/S 이슈ー】

⑪P/Lと会計的論点について。

【P/L 이슈ー】

⑫証券市場規制と企業のディスクロージャー行動について。

【ディスクロージャー】

⑬会計情報と投資意思決定について。

【投資意思決定】

⑭財務会計のWrap-up.

【財務会計】

⑮財務会計の知識のアプリケーションと応用。

【アプリケーション】...以上に代表されるテーマについての理解を、受講者の知識経験のレベルにあわせて深めて行く。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質、プレゼンテーションに際しての積極性、ディスカッションに際しての貢献度、期末試験の成績、等を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します(評価ウェイトの詳細は、初回オリエンテーション時にお知らせします)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 財務会計【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## 地域産業【夜】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

## 授業の概要 /Course Description

北部九州地域を支える産業の特性を分析しながら、その育成策について実証的かつ実践的に学んでいく。とくに産業立地や産業集積（クラスター）という観点から、地域において主導的な役割をはたしていく産業の成長促進策について体系的に学習する。  
また産業というレベルだけでなく、企業や事業所レベルでのミクロの動きについても注意を払い、九州地域の中小企業などが市場開拓や新規参入をはかる際の行動についても分析を加えていく。これに対応して行政側の企業支援策という側面についても言及していくこととしたい。

## 教科書 /Textbooks

配布プリントを中心とし、その他必要なものは講義中に指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中にその都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①日本および九州地域の産業構造と変化の動向  
【産業構造】【戦略産業】
- ②北部九州地域の産業構造  
【北部九州】【福北大都市圏】
- ③主要産業の動向と地域に与える影響I  
【素材産業】
- ④主要産業の動向と地域に与える影響II  
【加工組立産業】
- ⑤主要産業の動向と地域に与える影響III  
【商業・サービス業】
- ⑥地域産業における生産・流通システムの高度化I  
【大企業】【事業再構築】
- ⑦地域産業における生産・流通システムの高度化II  
【中小企業】【事業再構築】
- ⑧地域産業の新規事業開拓I  
【既存取引活用型】
- ⑨地域産業の新規事業開拓II  
【異分野展開型】
- ⑩地域産業の新規事業開拓III  
【事業転換型】
- ⑪地域産業活性化への政策的対応I  
【事業高度化促進】
- ⑫地域産業活性化への政策的対応II  
【立地促進】【企業誘致】
- ⑬地域産業活性化への政策的対応III  
【雇用促進】【人材活用】
- ⑭地域産業活性化への政策的対応IV  
【集積促進】【イノベーション】
- ⑮まとめ  
【地域産業育成のあるべき姿】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート・プレゼンテーション、ディスカッションに対する貢献度、小テスト、期末試験など

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 地域産業【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

## 国際ビジネス・スキル【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

## 授業の概要 /Course Description

国際ビジネスにおけるコミュニケーション・スキル、交渉スキル、さらにはプレゼンテーション・スキルを体得することを目的とする。前半は、発音・文法などの英語の基礎を踏まえた上で、英語表現を反復して声に出しながら、「聞く」「書く」「読む」「話す」という国際ビジネス・コミュニケーションの基礎力を育む。後半部分では、前半で体得した基礎力に基づいて、ビジネス・コミュニケーションの実践を英語で行う。具体的な場面を想定して、交渉やプレゼンテーションを実践する。その際、あらかじめ用意された課題について、事前に周到な段取りをつける。尚、講師と受講生はその都度英文e-mailにて交信する。

## 教科書 /Textbooks

適宜、講師の作成したプリントを配布。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『仕事現場の英会話商社編』株式会社 DHC (2003年)
- 『英語で学ぶMBA ベーシックス』NHK出版(2002年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①国際ビジネス・スキルの講義概要  
【コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキル】
- ②英語の基礎の復習【発音と英語文法の学び方とその重要性】
- ③リスニングI 【Website を活用してのリスニング・スキルの向上】
- ④リスニングII 【DVD・CD を活用してのリスニング・スキルの向上】
- ⑤ライティング 【ビジネスe-mail とレターの書き方】
- ⑥スピーキングI 【ショート・トーク】
- ⑦スピーキングII 【会食(ビジネス・ランチ)】
- ⑧前半のまとめ、及び企業哲学と組織のビジョンについて
- ⑨ビジネス交渉実践I 【契約条件の交渉】
- ⑩ビジネス交渉実践II 【船積と代金回収】
- ⑪ビジネス交渉実践III 【リスクマネジメント】
- ⑫プレゼンテーション実践I 【プレゼンテーションの決まり文句】
- ⑬プレゼンテーション実践II 【自己及び製品の売り込み】
- ⑭プレゼンテーション実践III 【プロジェクトのプレゼンテーション】
- ⑮パブリック・プレゼンテーション

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネス英語力の成長度40%、授業及び課題への積極的な取り組みとその実践を60%として評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## ロジスティクス【夜】

担当者名 藤村 幸弘 / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	

対象学科 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクトアプローチの講義ICT(情報技術)を活用し、フォーマルな学び(座学)とインフォーマルな学び(実体験)を組み合わせたプログラムです。バリューチェーン、サプライチェーンの基礎知識を基に国際ビジネスプランを作成する。講義に於いては、グローバルゼーション、パートナーシップ、チームビルディングを経験し、グローバルビジネスの観点から地域ビジネスを考える力を養うことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

プロジェクターにて内容を表示、支給したiPadを使用しテキストを閲覧

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① インTRODクシヨン  
国際ナシヨナルビジネスとロジステツク
  - ・バリュウチェーン
  - ・サプライチェーン
  - ・グロウバルサプライチェーン
- ② チウム結成  
プロジェクト課題決定  
ファシリテーターの役割、リーダーの役割を“学ぶ”
- ③④ サプライチェーンとマーケティングの関連性を“学ぶ”  
SCMの事例紹介“ポジショニング”の重要性  
“パートナーリング”“チウムマネジメント”の重要性
- ⑤⑥ 地域から見た国際ナシヨナルビジネスを“学ぶ”  
“ソウシャルネットワウク”を活用した世界のリアルタイム情報と分析法  
第一回目ビジネスプランの検証
- ⑦⑧ 地域から見た国際ナシヨナルビジネスを“学ぶ”  
グロウバル情報を基に地域からグロウバルビジネスを考える。
- ⑨⑩ 地域から見た国際ナシヨナルビジネスを“学ぶ”  
インフォーマルな形でのチウムメンバーからの学びの重要性
- ⑪⑫ ビジネスプランの検証
- ⑬⑭⑮ プレゼンテーションと統括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションへの参加率、実態調査への貢献度、プレゼンテーションへの貢献度を元に総合的に評価する。  
ディスカッション(25%)、調査資料(25%)、プレゼンテーション(25%)、モチベーション(25%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネス・システム【夜】

担当者名 /Instructor 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程, 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	

## 授業の概要 /Course Description

ビジネスに必要なスキルは、プレゼンテーション、ライティング、コミュニケーションなど多岐にわたるが、本講義では、問題解決に必要なとされる基本的な思考方法、分析ツールを紹介し、ケーススタディを通して解決スキルを習得してもらうことに主眼を置いている。

前半は、ロジカル・シンキングを主体に講義を行う。後半は、情報システムの視点から授業を構成する。適宜、演習問題を課すことによって理解力を高め、スキルの向上をめざす。

具体的には、思考では水平思考など、ツールでは、ロジックツリー、KJ法など簡単なものからパソコンを利用したいいくつかの分析手法を取り上げる。

## 教科書 /Textbooks

プリントまたは冊子を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

バーバラ・ミント(1999年)『考える技術・書く技術』ダイヤモンド社  
 平山克己(2008年)『あほ賢システムのおはなし』SCC  
 刀根 芳(2001年)『オペレーションズ・リサーチ読本』日本評論社  
 柏木吉基(2006年)『Excelで学ぶ意思決定論』Ohmsha

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 演繹法と帰納法(北) 【因果関係・共変関係】【一致と差異】
- ② 仮説思考(北) 【MECEとフレームワーク思考】
- ③ 水平思考(北) 【イノベーション思考】
- ④ ピラミッド原則(北) 【ロジックツリー】
- ⑤ 分析ツール(北) 【回帰分析】【ファクター分析】【感度分析】
- ⑥ 演習問題(北)
- ⑦ ビジネスとコンピュータ科学(平山) 【基幹業務システム】【EUC】【JIT】
- ⑧ 問題解決手法(平山) 【KJ法】【ブレインストーミング】
- ⑨ 表計算ソフトによる図解化法(平山) 【グラフ化】
- ⑩ オペレーションズ・リサーチ1(平山) 【最適化】【線形計画法】
- ⑪ オペレーションズ・リサーチ2(平山) 【PERT】
- ⑫ プレゼンテーションソフトによる図解化法(平山) 【DFD】【フローチャート】
- ⑬ 業務モデル化手法(平山) 【IDEF】
- ⑭ 業務分析手法(平山) 【Activity Based Costing】【管理会計】
- ⑮ 討議とまとめ(北)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況・・・30% 課題・・・40% 討議の貢献度・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords





# ベンチャー・ビジネス【夜】

キーワード /Keywords

# 国際経営【夜】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

企業・経営のグローバル化に関する広い視野と深い洞察力、国際化戦略の策定に関する専門的知識の習得を目的とする。講義は3部構成で、第1部では国際経営や多国籍企業概念や理論の検討を通じて国際経営の基礎を学ぶ。第2部では、日本企業を中心に多国籍企業の経営戦略を検討する。所有政策と組織、海外生産と国内雇用維持のジレンマ、海外子会社の経営の立ち遅れなど。第3部は事例研究とゲストスピーカーの話を中心に討論を行い、理解を深めることにしたい。

## 教科書 /Textbooks

レジюме、資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

吉原英樹編著『国際経営論への招待』ミネルヴァ書房  
竹田志郎・島田克美編著『国際経営論』ミネルヴァ書房

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントラダクション 【企業の国際化】【グローバル競争】【産業の空洞化】
- ② 国際化の基礎理論 【国際化の動機と発展経路】【直接投資】【多国籍企業】
- ③ 多国籍企業概念と理論 【企業の国籍】【直接投資】【PLC理論】
- ④ 多国籍企業の経営戦略1 【輸出・技術提携・海外生産】【単独事業か合併事業か】
- ⑤ 多国籍企業の経営戦略2 【国のポートフォリオの選択】【経営資源の移転戦略】
- ⑥ 多国籍企業の所有戦略 【所有形態の決定要因】【日本と米国の比較】
- ⑦ 多国籍企業の組織戦略 日本の海外事業部と米国の地域別事業部制
- ⑧ 日本の多国籍企業の海外生産 【輸出から海外生産へ】【日本の経営の移転】
- ⑨ 日本の国際経営の課題 【業績低迷と現地化の遅れ】【内なる国際化】
- ⑩ 実態分析I 日本企業の対中投資の動向と経営課題
- ⑪ 実態分析II 日本企業と中国企業の競争力分析
- ⑫ 事例研究I 中国における日系多国籍企業の事例(ゲストスピーカーを予定)
- ⑬ 事例研究II 東アジア華人系多国籍企業の事例(同上)
- ⑭ 事例研究III 租税戦略と租税回避規制(同上)
- ⑮ まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート、討議参加度などを総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 戦略的提携と事業創造【夜】

担当者名 /Instructor 林 秀美 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

「戦略的提携と事業創造」は、知識社会が進展していく21世紀型の事業戦略の核である他組織との戦略的提携（アライアンス）による新たな事業創造のメカニズムを習得することを目的としている。この科目は、実務経験をもとにしたケーススタディを中心に受講生とのディベートを通して理解を深めていくことにする。  
 知識社会を前提とした21世紀の事業創造は、各組織(企業)のコアコンピタンスの連携によるコラボレーション(戦略的提携)がいかに中心的役割を果たすことになるのかを明らかにする。この戦略的提携による事業創造を具体的な事業として実現していくには、どのようなプロセスをたどるのか、そのプロセスについてケーススタディを中心に理解していく。この講義は、実践力の養成に主眼を置くことにする。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 戦略的提携と事業創造 ( ケーススタディ「地図屋のIT革命」 )
- ② 戦略的提携と事業創造 ( ディスカッション )
- ③ 知識社会における事業創造 ( 技術革新と事業創造発想のプロセス )
- ④ アライアンスとアウトソーシング ( 共同開発 / コンソーシアム / 資本提携 )
- ⑤ 事業計画書の策定 / 戦略立案プロセス
- ⑥ 事業計画書の策定 / 戦略立案のプロセス ( ディスカッション )
- ⑦ トップの意思決定プロセスと事業創造(ケーススタディ)
- ⑧ トップの意思決定プロセスと事業創造(ディスカッション)
- ⑨ 企業内イノベーション～組織と人事
- ⑩ 意識改革、発想のイノベーション
- ⑪ 戦略的提携と事業実現(ケーススタディ「ゲスト講義」)
- ⑫ 戦略的提携と事業実現(ディスカッション)
- ⑬ 戦略的提携のプロセスと課題
- ⑭ 戦略的提携と事業創造まとめ 1
- ⑮ 戦略的提携と事業創造まとめ 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験はおこなわない。ケース・ディスカッションに対する貢献度や毎回のテーマごとのレポートなどを総合的に評価する。授業への参加姿勢とレポート提出70%で履修したものとみなす。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィナンシャル・インベストメント【夜】

担当者名 /Instructor 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

さまざまな金融商品のリスク・リターン特性、証券市場の価格決定メカニズムを学んだうえで、ポートフォリオの運営やデリバティブの活用方法などについて実例を交えながら学ぶ。具体的には、金融・証券市場、投資の基本概念、債券投資、株式投資、デリバティブ、現代ポートフォリオ理論、資本市場理論などについて、実例を通して学び、自ら分析できるようにする。そして、分析手法をケース・スタディに応用して、実践的な分析力を養い、適切な経営判断ができるようにする。

## 教科書 /Textbooks

ボデイ & マートン (著) 大前恵一朗 (訳) (2001年) 『現代ファイナンス論 改訂版』ピアソン・エデュケーション

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ブリーリー & マイヤーズ & アレン (著) 藤井真理子・国枝繁樹 (監訳) (2007年) 『コーポレート・ファイナンス (第8版) 上・下』日経BP社  
日本証券投資アナリスト協会編(1998年) 『証券投資論 3版』日本経済新聞社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション【ファイナンス】
- ② 金融市場と金融資産  
【市場】【債券】【株式】【派生商品】【機関投資家】
- ③ 投資の基本概念  
【現在価値分析】【投資収益率】【効用】
- ④ 債券投資分析(1) 金利と債券価格  
【最終利回り】【デュレーション】【イールド・カーブ】
- ⑤ 債券投資分析(2) 金利の期間構造  
【イールド・カーブの特性】【純粋期待仮説】
- ⑥ 株式投資分析(1) 配当割引モデル  
【ゼロ成長モデル】【定率成長モデル】
- ⑦ 株式投資分析(2) 市場の効率性と株式投資  
【効率的市場仮説】【アノマリー】
- ⑧ デリバティブ(1) 先物の理論価格とヘッジ  
【先物取引】【先物取引】【ベースス・リスク】【ヘッジ比率】
- ⑨ デリバティブ(2) オプションの仕組みと利用法  
【コール・オプション】【プット・オプション】【本源的価値】
- ⑩ ポートフォリオ理論(1)  
【期待収益】【投資リスク】【分散投資のリスク軽減効果】
- ⑪ ポートフォリオ理論(2) 最適ポートフォリオ  
【無リスク証券】【分離定理】
- ⑫ ポートフォリオ理論(3) ケース・スタディ  
【アセット・アロケーション】
- ⑬ 資本市場理論(1) CAPM (資本資産評価モデル)  
【資本市場線】【ベータ】
- ⑭ 資本市場理論(2) 裁定価格理論  
【ファクター・モデル】【裁定ポートフォリオ】
- ⑮ 資本市場理論(3) ケース・スタディ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの貢献度 30パーセント  
課題の提出 30パーセント  
期末レポートまたは期末試験 40パーセント

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## フィナンシャル・インベストメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国企業論【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

日本における地域産業振興、空洞化の回避、経営国際化の促進をめぐる議論では、東アジア、中でも「中華圏」を抜きに語れなくなっており、「華人系要因」「中国要因」を媒介にした東アジア域内経済の一体化が急速に進んできた。こうした現実に鑑み、本講義は日本企業の対東アジアビジネス展開に役立つ現地企業の経営様式に関する体系的知識と分析視点の提供を試みている。前半においては儒教文化の影響下にあるNIES、ASEANの華人系企業に、後半に経営環境が激変する中国企業に焦点を絞り、それぞれの企業制度と経営システムの特徴、抱えている諸課題を取り上げると同時に、ユニークなビジネスモデルを有するケースを複数紹介する。最後に、東アジア系資本同士によるWin-win 関係の構築の可能性をめぐってグループ討論する予定である。

## 教科書 /Textbooks

手作り資料を配布していく予定

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

王効平、尹大栄、米山成美『日中韓企業の経営比較』税務経理協会  
 王効平『華人系資本の企業経営』日本経済評論社  
 末廣昭『ファミリービジネス論』名古屋大学出版会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：なぜ東アジアか？  
 【儒教資本主義】【開発独裁】【キャッチアップ型工業化】
- ② 儒教文化圏の財閥企業  
 【韓国財閥】【華人系財閥】
- ③ 東アジア財閥系企業の経営様式  
 【統治構造】【優位性と脆弱性】【事業継承】
- ④ 東アジア財閥系企業の経営様式  
 【経営の内部特性】【戦略立案】【組織特性】
- ⑤ 「ネットワーク重視型」とは  
 【生活文化と企業文化】【資本関係】【取引関係】
- ⑥ 中国企業統治の変遷、課題  
 【国家株主】【中国型統治？】【独立取締役】【外部統制】【内部統制】
- ⑦ 形成されつつある新経営システム  
 【経営システム】【環境適応理論】
- ⑧ 経営目標・経営戦略  
 【利益重視】【立案方法】
- ⑨ 経営組織と意思決定様式  
 【公式化】【複雑化】【集権化】
- ⑩ インセンティブ・システム  
 【業績主義】【年俸制】【ストックオプション】【経営者権市場】
- ⑪ 資金調達の実態  
 【国有銀行】【民間金融】【資本市場】
- ⑫ 中国企業ケースI：五星電器  
 【MBO】【企業文化】【SCM】
- ⑬ 中国企業ケースII：希望グループ  
 【民営企業家】【同族経営】
- ⑭ 総括I：中国企業は競争相手がパートナーか  
 【戦略的提携】【Win-win 関係】
- ⑮ 総括II：東アジア共同体の形成とアジアビジネス

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出状況・完成度、討議参加の積極さなどをもとに総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# 中国企業論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 中国ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 基人 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

「チャイナ・プラス・ワン」、「チャイナ・リスク」などのキーワードが頻繁に目に触れるようになってきている。持続的高成長を実現してきた中国という現実的な巨大市場が存在しているからこそ、日系企業が中国ビジネスに対する大きな期待を寄せながら、過度な依存への警戒心を抱いている。中国市場と如何なる関わり方を持つかは広く関心を持たれる課題になっている。  
 本講義は中国市場の特性、ビジネス慣習を紹介した上、中国への進出企業のユニークなケースを3つ取り上げる。それぞれの事業戦略パターン、事業展開の経緯、成功の秘訣を、複数の経験豊かな専門家が実際の経験を踏まえて伝授していく。

## 教科書 /Textbooks

基本的にはプロジェクターを使用。  
 必要に応じてプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

都度揭示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション～講義内容の構成、進行法、課題提出、グループ編成  
 【市場の特性】、【ビジネス慣習】
- ② 日中間の経済相互依存関係  
 【貿易構造】【対日(中)依存度】【直接投資】【政冷経熱】
- ③ 中国ビジネス開拓事例A—機械メーカー  
 【事業戦略の構築】【パートナーの物色】【変貌する中国市場】
- ④ 中国人とはどういう人達か！?  
 【R.I.C.は重要】
- ⑤ 経営の現地化  
 【人事の現地化】【中国ビジネス成功のためのポイント】
- ⑥ 日系企業に求められているポイントと課題  
 【発展空間とは】【市場開拓】
- ⑦ 交渉の心得！
- ⑧ 危機管理  
 【日常管理と非常時】【偽物商標対策と著名商標】
- ⑨ 中国の消費者行動と広報と広告宣伝活動、その戦略  
 【ブランドイメージ】【媒体を使つての広報活動や企業広報としてのフォーラム】
- ⑩ 販売網の構築と差別化戦略  
 【アフターサービス】【業教育】【現金取引】
- ⑪ 中国市場の変化を見抜け  
 【消費者の嗜好】【過当競争】
- ⑫ 日系企業の弱点  
 実例、受講者の感触を踏まえて議論する
- ⑬ 中国ビジネスの開拓事例B—衛生陶器ブランドメーカーのケース  
 【合併選択の理由】【信頼関係の醸成】、【ブランドイメージの維持】
- ⑭ 中国向け貿易ビジネスの開拓事例C—日中間加工貿易のケース  
 【OEM】【合併事業】【三角貿易】【環境配慮型】
- ⑮ まとめ＝総合討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート(50%)、討論参加度(50%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。



# 中国ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 環境政策【夜】

担当者名 /Instructor 垣迫 裕俊 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

北九州市は、わが国でも特異な環境政策の歴史を有する都市である。本授業では、北九州市での実践事例を題材にして、環境政策の基本的な考え方、環境ビジネス振興のポイント、環境問題における市民とのコミュニケーションのあり方、さらには低炭素社会に向けた企業活動や国際的な政策の動向を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

授業の都度、資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『環境首都北九州市～緑の街を蘇らせた実践対策』北九州市環境首都研究会、日刊工業新聞社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①環境政策総論
- ②環境政策の原則、手法
- ③持続可能性論
- ④北九州の公害対策史
- ⑤エコタウン事業とは何か
- ⑥エコタウン事業の成果、課題、展開
- ⑦PCB処理事業に見るリスクコミュニケーション
- ⑧家庭ごみ収集制度見直しと市民
- ⑨地球温暖化と国際社会の動向
- ⑩低炭素社会とは何か
- ⑪低炭素社会に向けた日本の戦略
- ⑫次世代環境ビジネス
- ⑬アジアでの環境協力、海外ビジネス
- ⑭北九州市の低炭素戦略
- ⑮まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加姿勢、授業中のディスカッションに対する貢献度

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 医療マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

医療は特殊な公共的サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。わが国は、世界に類をみない国民皆保険制度がとられているが、前例のない少子高齢社会を迎え、制度改革が矢継ぎ早に行われている。大変革期における適切な医療資源の確保、良質で低廉な医療サービスの提供をどのように実現するかが社会課題となっており、そのための合理性を持った医療マネジメントの技法を習得し、医療現場に活用する要点を演習により理解させる。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

厚生労働省編『厚生白書』、的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 序論 医療政策と医療
- ② 医療はなぜ特殊なサービスなのか？
- ③ 医療サービス選択の自由はあるのか？
- ④ 医療サービスを支える医療資源の条件は？
- ⑤ 医療施設はどこまで安全か？
- ⑥ 医療費の支払いは適正なのか？
- ⑦ 医療サービスの価格設定と国民医療費の関係は？
- ⑧ 医療情報システムでマネジメントは可能か？
- ⑨ 病院・診療所のコスト管理はどうしているのか？
- ⑩ 高度先進医療はどこまで必要か？
- ⑪ 周産期医療・小児医療のマネジメント
- ⑫ 高齢者医療と介護のマネジメント
- ⑬ ライフサイクルごとの保健事業のマネジメント
- ⑭ 地域ケアネットワークのマネジメント
- ⑮ 医療のマネジメントを効果的に行うには？

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習レポートの評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 福祉マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 芳賀 祥泰 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

少子超高齢社会において福祉は成長産業になっている。福祉サービス供給主体としては、社会福祉法人、医療法人、営利法人、NPO 法人など多様になっている。福祉に携わる人は、これまで以上にマネジメントの必要性が増している。一方、これから福祉産業に参入をしようとするならば、逆に福祉マインドを学ぶ必要がある。つまり福祉産業に携わる人は、福祉マインド+マネジメント力が必須になる。福祉産業の充実が、医療産業とともに、産業としての成長だけではなく、今後は地域社会の中での地域ブランド力の重要な要素になる。福祉に携わる人だけではなく、他の産業に携わる人こそ知っておくべき内容である。毎回講義だけではなく討議を行う。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

芳賀祥泰編著(2007年)『福祉マネジメント』エルダーサービス  
 小松理佐子編(2010年)『よくわかる社会福祉運営管理』ミネルヴァ書房  
 芳賀祥泰編著(2010年)『福祉の学校』エルダーサービス

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション1  
【地域社会と福祉】
- ② イントロダクション2  
【福祉経済、福祉産業】
- ③ 福祉マネジメント1  
【福祉マネジメント概論】
- ④ 福祉マネジメント2  
【ビジョン・ミッション】
- ⑤ 福祉マネジメント3  
【リーダーシップ】
- ⑥ 福祉マネジメント4  
【組織風土・人材育成】
- ⑦ 福祉マネジメント5  
【財務・法務】
- ⑧ 福祉マネジメント6  
【リスクマネジメント】
- ⑨ 福祉マネジメント7  
【経営戦略】
- ⑩ 福祉マネジメント8  
【マーケティング】
- ⑪ ケーススタディ1  
【社会福祉法人・医療法人】
- ⑫ ケーススタディ2  
【生活協同組合・NPO 法人】
- ⑬ ケーススタディ3  
【営利法人】
- ⑭ 課題発表会  
【課題についての討議】
- ⑮ まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席および講義中でのディスカッション(40%) 課題に対するレポート(60%)で総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# 福祉マネジメント 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# プロジェクト・マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 片山 憲一 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

都市経営を行う上で、投資資金が回収できない事業や運営経費は出ないが、社会的効果が高く取り組まなければならないプロジェクトがある。この講義では、そのような純民間では困難なプロジェクトを具体化する際の企画、整備、運営についてケーススタディを通して実践論を学ぶ。また、新たなプロジェクトに着手する際のマーケット分析や資金調達方法、マネジメント手法について勉強する。さらに、各プロジェクトの事前・事後評価手法について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

講義時間にその都度配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『道路の経済学』松下文洋之著(講談社現代新書)
- 『日本の交通ネットワーク』山重慎二編著(中央経済社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 公的プロジェクトマネジメント科目の概観  
【都市のインフラとは何か】この講座で取り扱う公的プロジェクト
- ② プロジェクト分類論  
【社会的割引率等】20世紀型のプロジェクトから21世紀型へ
- ③ 公的プロジェクト企画論  
【地域の活性化プロジェクトを企画する】需要予測の考え方
- ④ プロジェクトの事前評価論  
【マーケティングとB/C】「平尾台自然の郷」と「健康産業」
- ⑤ 公的プロジェクトの費用便益  
【道路の費用分析】
- ⑥ 公的プロジェクトとソーシャルビジネス  
【組織と広報】
- ⑦ 公的プロジェクト評価論  
【ひびきコンテナターミナル評価と企業誘致効果】
- ⑧ 空港プロジェクトの例  
【効率と質のバランス】スターフライヤー立ち上げ支援の例
- ⑨ 観光プロジェクトの例  
【門司港レトロ事業等横串プロジェクト】
- ⑩ 街づくりプロジェクトとその活用  
【マイタウンマイリバー】
- ⑪ 補助金を使うプロジェクト  
【演習問題の実践と解説】軒柱ケーブル、門司港レトロ列車
- ⑫ 演習 1  
【環境プロジェクト】低炭素化センタービジネスor レアメタルリサイクル
- ⑬ 演習 2  
【育児・介護プロジェクトなど】【到津の森公園】
- ⑭ まとめの討論
- ⑮ 課題試験の解説

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加姿勢 40%  
レポート・プレゼンテーション 20%、  
期末試験 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## プロジェクト・マネジメント【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 開発管理【夜】

担当者名 /Instructor 大津留 榮佐久 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

この講座においてイノベーションの源泉となる“企業戦略と研究開発戦略の連関を理解した開発戦略の策定方法、研究開発の組織運営、開発推進管理、収益改善に寄与する革新的な製品・技術・プロセス開発などの開発テーマや、開発スケジュールの策定方法、人事評価、人材育成、研究開発の生産性向上、研究開発リソースの最適配分、研究開発における特許管理、外部資源の有効活用、開発成果の早期発現などの研究開発・新製品開発マネジメントプロセス全体を講述する。また企業ケース討議や外部招聘講師による講義と相互ディスカッションを通じて企業最前線の事例研究を行い、開発マネジメントにおける「知識」「手順・手法」を学習し、以下の技術経営力を醸成する。

- ・ 研究開発成果の発展性を短時間に掴む評価力
- ・ 全体業務プロセスを俯瞰した技術育成力
- ・ 知的財産の戦略的な取得と活用力
- ・ 自社のコア技術把握と自社の「魅力・潜在性」を促す推進力

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

今野浩一郎著『研究開発マネジメント入門』日本経済新聞社(1993年)  
 浜田尚夫著『研究開発者入門』ダイヤモンド社(1996年)  
 オリパス『内視鏡分野での挑戦と革新』一橋ビジネスレビュー(2005)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は2コマ/1回とし、座学、ケース討議と外部招聘講義を通じて、多様な開発管理コンテキストや企業ケースを学習しながら、「気づき」「視点を変え」「考察する」によって開発マネジメント思考を醸成させていきます。

- ①②企業戦略と研究開発【企業の持続的発展と研究開発】、【我が国における研究開発の現状と特徴】、【企業経営と研究開発】、【研究開発技術の評価】
- ③④技術開発における特許評価と活用法【特許評価の重要性と価値向上、特許活用法】  
 特許評価(パテントレザルト社)と知財開発投資(DBJキャピタル)の事例紹介
- ⑤⑥研究開発戦略と実用化推進マネジメント【研究開発戦略と技術マネジメント実践】  
 企業ケース討議:オリパス(内視鏡分野での挑戦と革新)
- ⑦⑧中核技術開発と技術獲得・外部連携マネジメント【技術・事業戦略の重要性】  
 特別招聘講師:大阪ガス オープンイノベーション室 松本室長
- ⑨⑩海外事業開発と開発リスクマネジメント【グローバル化推進の課題とリスク対処】  
 企業ケース討議:ダイキン(海外アライアンスとM&A戦略等)
- ⑪⑫新製品・サービス開発とプロジェクト管理【ステージゲート法とPMBOK実践法】  
 外部招聘講師:ソニーセミコンダクタ社 亀井開発部長(九州初PMBOK認定講師)
- ⑬⑭開発人材マネジメントと人事制度【人事評価と報奨制度】、【人材育成と能力開発】  
 外部招聘講師:PMT社 三宅企画部長(IEEE論文審査委員)【外資系事例紹介に学ぶ】
- ⑮特別講演:サービスから考える顧客価値の創造【企業先進事例に学ぶ】  
 特別招聘講師:オムロンヘルスケア 執行役員 竹林一氏

上記の内容を8回(15コマ)に分けて講義とケース学習を組合せ、レポート課題(企業ケース事前読了A4版1枚に記述)の提出による発表・討議と外部講師との質疑応答討議により理解を深める。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート提出、および講義中の発表・討議に対する貢献度、「開発管理」の期末小論文(A4版3枚)提出などで総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。



## 開発管理【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 新事業開発と知的財産権 【夜】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程, 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

知識社会へのシフトによって、わが国では1990年代後半から大学や研究機関等の知的インフラの成果をいかに効果的にビジネスに結びつけるかが重要課題となっている。  
 そのため、行政はこの10年ほど積極的に科学政策や産業政策を展開させて「産学連携」を押し進めている。しかしながら、その現場では各担い手の認識の不足やお互いのコミュニケーション不足によって多大な困難が生じており、順調に成果があがっているわけではない。よって、本講義では産学連携による新事業開発に焦点をあて、成果をあげるためのマネジメントについて事例を踏まえながら考察する。また、産学連携の成果の1つである知財戦略についても検討する。  
 なお、⑨～⑫については、弁護士知財ネット九州・沖縄地域会から講師を招聘し、講義を実施する。

## 教科書 /Textbooks

適宜、プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

馬場靖憲 / 後藤晃 『産学連携の実証研究』 東京大学出版  
 玉井克哉 / 宮田由紀夫 『日本の産学連携』 玉川大学出版部  
 二神恭一 / 日置弘一郎 『クラスター組織の経営学』 中央経済社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 産学連携のバックグラウンド  
 【知識経済】 【コラボレーション】 【イノベーション】
- ② 我が国の地域産業政策と科学政策の変遷  
 【技術移転】 【クラスター政策】
- ③ 産学連携支援組織の仕組みと活動内容  
 【TLO】 【産学連携支援組織】 【コーディネート】 【行政の役割】
- ④ 産学連携支援組織の成果と課題  
 ~ 北九州産業学術推進機構の事例から ~
- ⑤ ~ ⑥ 企業からみた産学連携の実態【研究会運営】 【コミュニケーション手法】
- ⑦ ~ ⑧ 産学連携プロジェクト創出に向けたマネジメントの実態【テーマ設定】  
 【研究会運営】 【人選】 【チームビルディング】  
 [ 実習 ] 国プロや各種公的助成への提案シミュレーション
- ⑨ ~ ⑩ 知財戦略と事業化【共同開発契約】 【取引基本契約】 【ライセンス】
- ⑪ ~ ⑫ 知財戦略と製品の防衛【模倣品対策】 【侵害対応対策】
- ⑬ 産学連携プロジェクトの成果の事業化に向けた課題I  
 ~ ケーススタディ : K 社 ~
- ⑭ 産学連携プロジェクトの成果の事業化に向けた課題II  
 【マーケティング】 【デスバレーの克服】 【事業化体制】 【事業創造】
- ⑮ 今後の産学連携プロジェクト (まとめと展望)  
 【成長産業戦略】 【スマート・グリッド】 【EV】 【事業創造】 【コラボレーション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート、ケース・ディスカッションに対する貢献度などをもとにして総合的に判断する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ビジネス中国語【夜】

担当者名 /Instructor 松下 丹紅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

東洋文化の大きな特徴の一つに、まず言語表現の建前と本音の違いをあげることができる。中国（中華）社会も例外ではない。ビジネスで常用される決まり文句、独特な言い回し、各種ビジネス書類の読み方、作り方を学んでいく。一定の中国語基礎を持っている方の受講が望ましい。

## 教科書 /Textbooks

中国語初級テキスト  
『仕事のための基礎中国語』（金星堂）2600円及び手作りプリントの配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指定。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①発音の総復習、中国語による自己紹介等
- ②中国商慣習、出迎える時の会話
- ③車での移動、ホテルまでの案内
- ④ホテルの部屋を見る
- ⑤会社見学、数字の表現
- ⑥紹介、時間の表現
- ⑦電話を受ける時の会話
- ⑧⑨商談会話
- ⑩⑪契約書の翻訳
- ⑫⑬ビジネスレター
- ⑭価額交渉
- ⑮まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題の完成度、講義への授業への参加姿勢、終了テストによって評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 自治体政策【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

現在日本は、豊かな成熟社会の中で市民のニーズは高度化多様化し、他方、グローバル化による人口減少・少子高齢社会として財政逼迫に直面している。その上自治体は「平成の大合併」後の本格的な地方分権のもとで、道州制や新しい国土形成計画など全国的な地域再編を迫られている。このような行政環境の変化に対応すると同時に、市民ニーズに合う政策課題を探求し、それらを政策形成に的確に反映させることは自治体運営の大きな課題である。本講義では、このような自治体の課題に応える人材の育成を目指して、自治体政策について、自治体を取り巻く環境変化、地域再編、産業と都市、政策形成上等の観点から考察する。受講生の希望次第では、研究報告をまとめるために役立つように、「報告・ディスカッション方式（報告者が自分の研究テーマにそって順番で報告し、全員でディスカッションする）」を採用することも可能である。

## 教科書 /Textbooks

授業の際、テキスト資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

広島大学地域経済システム研究センター編(2002年)『地域政策の道標』ぎょうせい  
 吉村弘(1999年)『最適都市規模と市町村合併』東洋経済新報社  
 吉村弘・戸田常一・齋藤寛男編著(2002年)『グリーン共創序説 - - - 循環型社会を目指して - - -』同文館

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション：講義のねらい・概要説明・注意事項など  
【WHATとHOW、課題設定と解決方法、問即答、知情意】
- ② 現代社会の潮流と政策課題探求①現代社会の潮流と公的部門の変容  
【現代の世界の動向、世界の中の日本、日本の中の公的部門】
- ③ 現代社会の潮流と政策課題探求②公的部門の変容と政策課題  
【市場と政府、民で出来ることは民で、公的部門の固有の役割】
- ④ 現代社会の潮流と政策課題探求③公的部門の変容と地域再編（その1）  
【地方分権、地方自治制度、市町村合併】
- ⑤ 現代社会の潮流と政策課題探求④公的部門の変容と地域再編（その2）  
【市町村合併の行方、道州制、国土形成計画】
- ⑥ 現代社会の潮流と政策課題探求⑥地域再編と地域間競争  
【都市間競争、地域の盛衰、地域間格差、生産性と地域動態】
- ⑦ 現代社会における都市と産業①地域間競争と産業  
【地域と産業、人口移動、足による投票】
- ⑧ 現代社会における都市と産業②経済発展と産業構造  
【リーディング産業、経済発展、産業構造、生産性】
- ⑨ 現代社会における都市と産業③工業化とサービス経済化  
【工業化、サービス経済化、産業が都市を造る時代、都市が産業を造る時代】
- ⑩ 現代社会における都市と産業④サービス経済化と知価社会  
【サービス経済化の新しい展開、付加価値生産性、知価社会】
- ⑪ 成熟社会における自治体の政策課題①市民社会の成熟と市民ニーズの多様化  
【市民社会の成熟、地域再編、産業と都市、持続可能性、市民ニーズ】
- ⑫ 成熟社会における自治体の政策課題②活力ある福祉社会  
【公立と公平、格差社会、社会福祉基礎構造改革】
- ⑬ 成熟社会における自治体の政策課題③政策形成上の課題（その1）  
【市民ニーズ、公民パートナーシップ、情報開示、説明責任】
- ⑭ 成熟社会における自治体の政策課題④政策形成上の課題（その2）  
【行政評価、インプット、アウトプット、アウトカム、市場化テスト】
- ⑮ 討議とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーション・ディスカッションとレポートとを各々50%のウェイトを目途として総合的に成績評価したい。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 自治体政策 【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# NPO/NGO特論【夜】

担当者名 /Instructor 奥田 知志 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、NPOの果たす社会的役割をより現場に近い視点から検証する。また、今後の社会におけるNPOの可能性を模索しつつ、行政、企業、地域社会との社会的協働におけるNPOの果たす役割について考察する。  
 一方日本においてはNPO法制定より10年に満たず、組織、資金の脆弱さと共にNPOの存在意義そのものが問われている。なぜ行政ではなく、また企業でもなく、さらに既存の公益法人ではなく、NPOが必要とされるのかを具体的な課題と向かい合う上で検証したい。また、NPOの運営についても検討する。

## 教科書 /Textbooks

事業ごとに資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- ①『ホームの回復』明石書店
  - ②『世界のNPO』早稲田大学出版部
  - ③『NPOという生き方』PHP新書
- その他授業にて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション  
【NPOの現代的意義 - 草の根の視点から】
- ②NPO法およびNPOの現状について  
【NPOとは何か】
- ③NPOの視座-基盤としてのミッション  
【使命の問題】
- ④ボランティア論  
【無償・有償ボランティア】
- ⑤協働論 1  
【行政との協働】
- ⑥協働論 2  
【企業との協働】
- ⑦協働論 3  
【地域との協働】
- ⑧NPOの実際 1  
【北九州ホームレス支援機構の事例】
- ⑨NPOの実際 2  
【福祉NPOの事例】
- ⑩NPOの実際 3  
【環境NPOの事例】
- ⑪NPOの運営について  
【人材・組織・財政】
- ⑫NPOビジネス論  
【NPOとビジネス】
- ⑬海外のNPOの事例から 1  
【アメリカの場合】
- ⑭海外のNPOの事例から 2  
【ヨーロッパの場合】
- ⑮まとめ  
【NPOの可能性について】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

事業における発表およびレポートにて評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# NPO/NGO特論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# モノづくり競争力の強化【夜】

担当者名 /Instructor 雨澤 政材 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

わが国は、資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位でなければならない。メイド・イン・ジャパンとして、世界トップのものづくり大国だった日本は80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、いまやそれだけでは追いついてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、生産性の重要性、生産技術などに重点をおいて、その対策について、事例を紹介しながら解説する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない、プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指定する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義方式に加えて、DVD やプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。質疑応答の時間を十分に取し、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
  - 【開発からアフターサービス】 【商品開発力】 【生産技術力】 【工場運営能力】
  - 【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
  - 【企業による工場の位置づけ】 【工場管理の基本】 【工場の持つべき要件】
- ③、④ 工場における労務管理
  - 【労務管理の変遷】 【労務の多様化】 【世界・日本・九州の労働市場の現状と将来】
- ⑤、⑥ 原価管理
  - 【原価管理の体系】 【原価構成・費目区分】 【開発段階での原価改善】
  - 【製造原価の把握と改善】
- ⑦、⑧ 品質管理
  - 【トヨタの品質管理】 【お客様指向】 【停めるライン、止まる機械】
  - 【自工程完結思想】 【トレーサビリティ】 【日常管理】 【変化点管理】
- ⑨ トヨタ生産方式の生まれた背景
  - 【トヨタの歴史】 【経営理念】 【トヨタ生産方式とは】 【トヨタ生産方式は展開が難しい】
- ⑩ トヨタ生産方式の基本的な手法
  - 【5S】 【職場の見える化】 【ムダの削減・排除】 【生産ラインの作り方】
- ⑪ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
  - 【基本姿勢】 【改善の切り口】 【生産仕掛けの改善】 【人の動きの改善】
  - 【物流改善】 【品質改善】
- ⑫ 新製品の生産準備
  - 【SE 活動】 【品質保証活動】 【生産準備活動】 【製造準備活動】
- ⑬ 生産技術・製造技術からのアプローチ
  - 【真似の出来ない技術】 【自社独自の設備や工程】
- ⑭ 人材育成と技能伝承
  - 【標準化と技能伝授】 【ワーキングライフプラン】
  - 【チームプレーという現場風土の伝承】
- ⑮ 製造現場のモチベーション管理
  - 【インセンティブ制度の功罪】 【公平な人事制度】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題についてのレポートや、ディスカッションなどをベースに評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks



# モノづくり競争力の強化 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 関 宣昭 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

## 授業の概要 /Course Description

近年、社会的課題をビジネスとして事業性を確保しながら解決しようとする「ソーシャルビジネス」への期待が高まっている。本講義では、まず経済社会におけるソーシャルビジネスの位置づけを整理したうえで、ソーシャルビジネスの現状を理解する。そのうえで、ソーシャルビジネスの現場のマネジメントに関する課題について学ぶ。具体的には、行政との連携、組織形態の選択、人材マネジメント、マーケティングなどの各テーマについて、事例やケースの分析を行う。さらに、実際にソーシャルビジネスを立ち上げ、運営していくことを想定した議論を行い、知識と実践的なマネジメント力を身につけることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

谷本寛治編著『ソーシャル・エンタープライズ』中央経済社、2006年。  
その他の文献については、講義のなかで紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション  
【ソーシャルビジネスとは何か】
- ② 日本におけるソーシャルビジネスの現状  
【ソーシャルビジネスの現状、課題、育成策】
- ③ ソーシャルビジネスの事例1  
【ソーシャルビジネスの強みと弱みの抽出】
- ④ ソーシャルビジネスの活動領域と課題  
【参加可能性と継続可能性】
- ⑤ ソーシャルビジネスの事例2  
【NPO法人里山を考える会の事例から考える】
- ⑥ ソーシャルビジネスと行政  
【パートナーとしての行政、顧客としての行政、スポンサーとしての行政】
- ⑦ ソーシャルビジネスの組織  
【ソーシャルビジネスの担い手と組織形態】
- ⑧ ソーシャルビジネスの人材マネジメント  
【リーダーの役割とスタッフのモチベーション】
- ⑨ ソーシャルビジネスとソーシャルマーケティング  
【マーケティングツールの社会活動への適用】
- ⑩ ソーシャルビジネスとソーシャルネットワーク  
【ソーシャルビジネスのためのICTツール活用戦略】
- ⑪ ソーシャルビジネスの事例3  
【社会条件の変化と組織の対応を考える】
- ⑫ ソーシャルビジネスをスタートさせるために  
【“学び”による地域活性化プロジェクトのケース分析】
- ⑬ ソーシャルビジネス起業シミュレーション1  
【立案と企画】
- ⑭ ソーシャルビジネス起業シミュレーション2  
【運営スキームと課題解決】
- ⑮ ソーシャルビジネス起業シミュレーション3  
【プレゼンテーションとディスカッション】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など): 50%、課題の内容(レポートなど): 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

# ソーシャル・ビジネス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 環境ビジネス【夜】

担当者名 /Instructor 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	

**授業の概要 /Course Description**  
 本講義では、第1に経済システムという視点から環境問題や環境行動を考察する(マクロ的分析)。第2に、環境ビジネス分野ごとの動向を把握し、現状分析と課題抽出を行い、その動向を探る(セミマクロ的分析)。第3に、企業経営において必要とされる環境行動について検討し、課題解決のためのプランを検討する(ミクロ的分析)。これによって環境とビジネスの関わりについて幅広い知識を得るとともに、さまざまな局面で生じる課題を分析し解決する力を身につけることを目指す。

**教科書 /Textbooks**  
 講義は基本的に配布プリントにて行うが、必要に応じて参考文献を指定する。

**参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )**  
 ダニエル・C・エスティ / アンドリュー・S・ウィンストン (村井章子訳) 『グリーン・トゥ・ゴールド』アспект、2008年。  
 その他の文献については、講義のなかで紹介する。

**授業計画・内容 /Class schedules and Contents**

- ①イントロダクション  
 【環境ビジネスとは何か】
- ②企業活動と環境問題  
 【環境問題と企業活動の関係を考える】
- ③社会システムと環境問題  
 【持続可能な発展：市場・行政・社会のシステム】
- ④リサイクルビジネスの基礎  
 【リサイクルビジネスの分野と成長可能性】
- ⑤リサイクルビジネスの課題  
 【リサイクルビジネスの課題とその解決方法】
- ⑥環境ビジネスにおける顧客創造  
 【顧客とは誰か？顧客創造とは何か？】
- ⑦環境産業クラスター1  
 【環境産業クラスターの現状と課題】
- ⑧環境産業クラスター2  
 【環境ビジネスにおける戦略とファイブフォース】
- ⑨現場から考える環境ビジネス1  
 【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑩現場から考える環境ビジネス2  
 【ゲストスピーカーによる講義と議論】
- ⑪環境ビジネスにおけるイノベーション1  
 【環境分野における技術革新と市場への適用】
- ⑫環境ビジネスにおけるイノベーション2  
 【環境ビジネスを通じたソーシャルイノベーション】
- ⑬環境ビジネスの市場分析と参入可能性1  
 【市場分析のフレームワーク】
- ⑭環境ビジネスの市場分析と参入可能性2  
 【市場分析に基づくディスカッション】
- ⑮まとめとディスカッション  
 【課題設定にもとづきディスカッション】

※なお、上記に加え、希望者による環境企業見学を行う(予定)

**成績評価の方法 /Assessment Method**  
 講義への貢献度(発言回数、発表内容、建設的な議論への寄与など)：50%、課題の内容(レポートなど)：50%

**事前・事後学習の内容 /Preparation and Review**

**授業に対する準備事項 /Preparation for the Class**  
 必要があればその都度連絡します。

## 環境ビジネス【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 医療経済【夜】

担当者名 /Instructor 舟谷 文男 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

## 授業の概要 /Course Description

医療は人間社会にとって必須の公共的サービスであり、社会保障制度の一つとして重要な役割を担っている。また、医学・医療技術は日進月歩の発展をみているが、その恩恵を、いつでも、誰でも、どこでも受けられる医療システムの仕組みはどのように構築すべきか、その社会コストを誰が支払うのか、人の命の価格は決められるのか、医療サービスを提供する専門職種や医療施設はどのような構造を持っているのか、経済市民の視点から、わが国の医療経済学の基本を幅広く理解させる。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

厚生労働省編『厚生白書』  
 真野俊樹著『入門医療経済学』中公新書  
 的場恒孝編『医療科学入門』南江堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 医療経済学序説
- ② 社会保障制度の中の医療
- ③ 医療需要構造
- ④ 医療サービスの選択 ( 需要・供給関係 )
- ⑤ 医療サービスの値段 ( 診療報酬制度 )
- ⑥ 医療提供構造と医療資源
- ⑦ 地域医療システム-I 地域・職域の保健・医療・福祉 ( プライマリケア )
- ⑧ 地域医療システム-II 地域の医療計画
- ⑨ 医療制度改革に翻弄される勤務医
- ⑩ 医療保障と地域医療
- ⑪ 医療のリスクマネジメント
- ⑫ 医療情報システムの構築と運用 ( 1 )
- ⑬ 医療情報システムの構築と運用 ( 2 )
- ⑭ 医療評価
- ⑮ 医療崩壊からの地域医療再生 ?

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習レポートの評価

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 好則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

わが国は、現在少子高齢化社会を迎え、社会保障の面において、大変困難な時代に遭遇しています。これから我々は、どのような時代を迎え、どのように生きていけばいいのかを、みんなで考えていきたいと思います。少子化、高齢化、年金、いじめ、虐待、貧困など問題が山積しています。現実社会で、発生している様々な事象を検証し、これからの進むべき方向について検討します。

## 教科書 /Textbooks

OHP、VTR、パワーポイント等を使用し、プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

棕野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障』有斐閣アルマ  
 杉原好則監修『福祉サービスの質の向上を目指して』メディカルレビュー社  
 河野正輝・中島誠・西田和広編『社会保障論』法律文化社  
 久塚純一・山田省三編『社会保障法解体新書』法律文化社など。  
 授業の進展に応じて適宜、新たに紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回の講義は、1・2時限の連続講義(計180分)とする予定。7回分の内容は以下の通り。

- ①② 社会保障制度の歴史  
日本の社会保障制度がどのように作られてきたかを学ぶ
- ③④ 公的扶助制度  
生活保護制度の問題点について学ぶ
- ⑤⑥ 高齢化社会と介護保険  
高齢化社会を迎え、高齢者の実態と介護保険制度について学ぶ
- ⑦⑧ 高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の見学実習  
高齢者施設の現場を見てこれからの高齢者施設の在り方について考える
- ⑨⑩ 障害者福祉と障害者自立支援法  
身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉について考える。
- ⑪⑫ 児童福祉「いじめ」、「虐待」  
今学校では何が起きているのか？いじめと児童虐待の実態について考える
- ⑬⑭ 福祉サービス第三者評価  
福祉サービスにおける第三者評価について考える
- ⑮ まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出題に対するレポート60%、ディスカッション30%、残り10%は授業への参加姿勢、授業中の意見発表などを総合的に判断する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 自治体経営【夜】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

## 授業の概要 /Course Description

「民間にできることは民間に」、「地方にできることは地方に」という基本的な考え方の下に推進された地方交付税改革等の「三位一体の改革」などにより、地方財政は大きな転機に直面した。さらに政権交代により「地域主権戦略大綱」の閣議決定、阿久根市や名古屋市など首長と議会の二元制のあり方を含む「地方自治法の抜本的な見直し」が現在進められている。自治体経営においては、民間企業と同様にヒト、カネ、モノなどの資源を活用して、地域を効率的・効果的、かつ持続可能に経営していくことは変わらない。そのため自治体の人事・組織、税財政、資産などの仕組みなどの特性を理解したうえで、福祉・医療、都市計画など個別の政策分野を通して自治体の経営戦略について検討する。

## 教科書 /Textbooks

授業の都度、資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『新・地方分権の経済学』(2006年) 林宜嗣 日本評論社  
『行政学(新版)』(2001年)『行政の活動』(2000年) 西尾勝 有斐閣

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 地方自治体を取り巻く社会・経済環境の変化  
【少子・高齢化等、地域経済の停滞】
- ② 地方自治体の仕組み・組織・人事制度  
【組織・権限、公務員倫理】
- ③ 地方分権改革などの動き  
【地方分権、自治法の改正などの動き】
- ④ 課題発表、議論  
【学生による意見交換、論議】
- ⑤ 議会  
【議会の役割、課題】
- ⑥ 地方自治体の財政制度I  
【国と地方財政制度の特色】
- ⑦ 地方自治体の財政II  
【財政構造、一般会計・特別会計・企業会計など】
- ⑧ 地方自治体の財政III  
【財政分析4表を読む】
- ⑨ 地方自治体の計画・行政評価  
【基本構想など計画、行政評価】
- ⑩ 地方自治体の政策I  
【保健・福祉・医療政策】
- ⑪ 地方自治体の政策II  
【産業・地域経済振興、地域づくり・コミュニティ政策】
- ⑫ 地方自治体の政策III  
【教育、都市計画】
- ⑬ 課題発表、議論  
【学生による意見交換、論議】
- ⑭ 監査、住民訴訟など  
【内部統制、コンプライアンス】
- ⑮ まとめ  
【これからの自治体経営の課題】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)、授業の状況(質疑、意見、発表等30%)をもとに評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。



# 自治体経営 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 実践マーケティング戦略【夜】

担当者名 /Instructor 丸田 秀一郎 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 平野 健二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	

対象学科 /Department 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

バブル崩壊時から急激に変化してきた熾烈な企業の考え方に注目し、具体的例を参考に、これから企業が生き延びる為の、経営戦略としてのマーケティングの仕組みを分析・研究する。顧客に接している営業関係者向けのマーケティング（5～9）と企業内部の経営者・技術者・製造担当者向けのマーケティング（1～4、11～15）の、双方の職責に向けて理論と実践を学習する。企業で行われている社内教育の例をモチーフに実践型の応用例の紹介や演習等を行う。資料は実企業で用いられている社内教育用に編纂された資料を活用。

## 教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布。電子データの場合USB等電子媒体の準備が望ましい。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

NE日経エレクトロニクス、日本経済新聞、日経Automotive Technology 等業界専門誌。  
日本能率協会 [ 技術マーケティング ] 等。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入編：産業界構造と企業が求める人材等、基本項目のレビュー  
企業教育の基礎、商材分類、アプリケーション、企業体内時計等
2. 最近の市場動向とアンゾフの成長ベクトルについて  
商材の分化・肥大化に伴う不振、時間のドリフト、アンゾフの成長ベクトル、例
3. 経営戦略とマーケティング  
基本4戦略と統合市場戦略、市場ライフサイクル、ドメインの定義、キャズム
4. 需要戦略  
需要戦略の骨子、プロセスフローシート、4Pの位置づけ、Push-Pull 戦略
5. One to One マーケティングの必然 ( lecture )  
①社会環境の変化 ( マスマーケティングの機能不全、コモディティからパーソナルへ )  
②同質競争の激化 ( 商圏の狭小化、市場創出の必要性 )
6. 価値の発見・定義 ( discussion )  
①価値の本質、②価値の発見、③価値の定義、④価値と価格
7. 価値の伝達 ( presentation )  
学生によるプレゼンテーション「各自が定めた商品の価値を伝える」
8. 顧客の発見・創造 ( discussion ) 顧客のプロファイリング  
デモグラフィック、購買行動 ( 顧客ID-POS の実例 )、定性分析
9. 価値伝達ツールの活用 ( discussion )  
①学生によるプレゼン～メディアの特性分析  
②メディア特性の確認  
③AIDMA とメディア特性
10. プレゼンテーション[価値伝達と評価]
11. 競争戦略  
SBUの定義、相対的経営資源、競争地位の定義、戦略定石、シェア争奪戦
12. ランチェスターの法則  
基本法則、クープマンの目標値、射程距離理論、弱者強者の戦い
13. コスト戦略 ( 製造と販売 )  
販売コスト、製造コスト、マネーフロー、おまけ論、付加価値の定量化
14. マーケティングに必要な補足事項  
①海外戦略の基本 ( 三段階の海外対応戦略について理解 )  
②企業活動に於ける分析手法 ( 6σ手法の考え方 )
15. 特別企画 ( ミニゼミや特別講師招聘等を行う )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションに対する貢献度等を評価して総合判断。なお、毎講義毎にデータベース ( 資料 : パワーポイント等 ) を配布し、授業への参加姿勢を重視する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 実践マーケティング戦略【夜】

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地域起業【夜】

担当者名 /Instructor 小嶋 寿見子 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	

## 授業の概要 /Course Description

世界的な経済変動の中で、日本が、何より地域・この北九州が勝ち抜いていくためには、地域をめぐる条件変化に対応し、地域に根付いた起業創造が必須である。本講義では、地域における起業に際し何をしたらよいかを議論、検討する。

具体的には、

- ・ 地域に密着している企業をケース分析することにより議論を深める
- ・ 地域のもつ事業資源を如何に把握し活用していくかを考える
- ・ 受講者自身が地域資源をベースとした自らのアイデアをもとに、現実的な事業計画を作成するこれらを通じ、地域特性に応じた起業を実現する力を身につけることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて指示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①② インタロダクション 起業すること、地域で起業すること  
【起業とは何か、地域経済にとっての起業の役割】
- ③④ 地域起業ケースI 株式会社サンキュドラッグ 代表取締役  
地域を科学する起業  
【地域特性の把握、地域経済の視点から導く起業の方法】
- ⑤⑥ 地域起業ケースII 遊生染織工房 主宰  
伝統の活用とブランド化・商流の確立  
【地域産業と起業、伝統工芸のビジネス化、地域ブランドの国際展開】
- ⑦⑧ アジアの時代の九州 九州旅客鉄道株式会社 代表取締役会長  
【グローバル化と地域経済、アジアと九州、観光分野における起業】
- ⑨⑩ ケース分析と事業構想  
【事業構想の構築、起業プランの作成】
- ⑪⑫ ケース分析演習 グループ討議  
【起業において直面する課題、起業プランのブラッシュアップ】
- ⑬～⑮ 事業構想のプレゼンテーション  
【プレゼンテーションとディスカッション、起業プランの評価】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題に対するレポートやディスカッション、プレゼンテーションへの貢献度等を元に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# イノベーション・マネジメント【夜】

担当者名 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	

対象学科 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

企業の成長は新製品(新サービス)の創出いかんにあるとされるが、そうした創出にかかわるマネジメントを実践的に習得する。受講生は、前半、講義スタイルで基本を理解し、後半、フィールドデータの収集と解析を通じて実際への応用を試みる。理解を助けるために自らケースを作成している。ケースの課題に対して、意思決定、判断のあり方を巡る活発な討議が行なわれることを期待している。  
また、顧客ニーズのデータについては、収集の方法、分析の方法など一連の手法を教示する。これらを通じて、製品や事業のコンセプト開発のプランニングを体得する。

## 教科書 /Textbooks

初回に冊子を配布(ケース討議では事前に課題を課します)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

ティッドほか(2004年)『イノベーションの経営学』NTT出版  
高田・上田・奥瀬・内田著(2003年)『MBAマーケティングリサーチ入門』東洋経済新報社  
近能・高井(2010年)『イノベーション・マネジメント』新世社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① イントロダクション【顧客価値の創造】【イノベーションの本質】
- ② イノベーションの歴史【連鎖】【集積】【制度的イノベーション】
- ③ ケース討議(1)【家庭用ロボット事業化】
- ④ イノベーションのパターン【発生】【普及】【進化】
- ⑤ ケース討議(2)【新素材商業化】
- ⑥ 日本のイノベーション・システム【技術政策】【ベンチャー・キャピタル】
- ⑦ 新製品開発のマネジメント(1)【製品アーキテクチャ】【業界標準】
- ⑧ 新製品開発のマネジメント(2)【差異化戦略】【情報粘着性】
- ⑨ サービス・イノベーション【経験イノベーション】
- ⑩ コンセプトの創造【知識カテゴリー】【プロダクトアウト戦略】
- ⑪ ケース討議(3)【真のコンセプト】【イノベーション・シンキング】
- ⑫ 主要な分析手法(1)【因子分析】、【重回帰分析】
- ⑬ 主要な分析手法(2)【エスノグラフィ手法】
- ⑭ 開発シミュレーション(1)【コンセプトの仮説】
- ⑮ 開発シミュレーション(2)【仮説検証】【結果のまとめ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況.....20%、課題.....40%、ケース討議の貢献度.....40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 基礎中国語【夜】

担当者名 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	

対象学科 【選択】 マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

中国語の発音、基礎文法、基本文型の学習を中心に授業を進める。リスニングの訓練も合わせて行う。また、日文中訳と中文日訳等の練習を通じて、両国語の特徴に対する理解を深める。2学期の「ビジネス中国語」を学習するため基礎を固める。

## 教科書 /Textbooks

王占華 編『日中両言語の対照による 比較中国語』（プリント配布）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

王占華 他 著『就職に役たてる中国語』 駿河台出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説
2. 発音 1
3. 発音 2
4. 「自己紹介」(判断文、人称代名詞)
5. 「入国」(疑問文 1、指示代名詞)
6. 「両替」(願望表現、数量)小テスト
7. 「道を尋ねる」(方向・位置表現、確認)
8. 総合練習
9. 「宿泊」(可能表現、時間)
10. 「食事」(命令文、形容詞述語)
11. 「買い物」(動作の状態、助数詞)
12. 「タクシーに乗る」(受身文、使役表現)
13. 「乗車券を買う」(時点、起点・終点)
14. 「観光ツアー」(時段、依頼表現)
15. 前期のまとめと復習

[ 受講者の学習経験の有無と要望に応じて、テキストや授業内容又はスケジュールを調整することがある。その際にテキストの代わりにプリントを配布する。 ]

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の練習 50%、期末試験 50%の割合で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループ・ディスカッションI【夜】

担当者名 /Instructor	専任教員											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	演習	クラス /Class				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

グループ・ディスカッションでは、徹底した討議とコミュニケーションを深めることを第一義とする。

具体的には、毎回、小課題が与えられ、グループ学習、グループ討議を繰り返す中で自分の研究テーマを探索、発見していく。したがって、自らのリーダーシップを発揮して主体的に議論を展開することが求められる。専任教員は議論を促すファシリテーター役を担う。成果は研究プロポーザル（研究計画書）としてとりまとめて提出する。

なお、授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする。各グループは各週1学期の間に9名の専任教員の指導にあたるようにローテーションを組む。学生から見ると9名の教員を巡回する方式であり、教員との交流が図れ、教員のリソース（専門分野など）も知ることができる。10週目から最終講義までの6回の講義は、最初に担当した教員を中心に研究プロポーザルをまとめ発表する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的な授業内容を示す。

①～⑨名の専任教員のローテーションによる指導

【専門分野に応じた小課題】

【討議を繰り返す】

⑩～⑮最初のグループ担当教員による指導

【研究プロポーザル（研究計画書）作成、発表】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究プロポーザルの成果物、討議に対する貢献度などをもとにして総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## グループ・ディスカッションII【夜】

担当者名  
/Instructor

専任教員

履修年次 1年次  
/Year単位 2単位  
/Credits学期 2学期  
/Semester

2学期

授業形態 演習  
/Class Format

演習

クラス  
/Class対象入学年度  
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

2年次のプロジェクト研究へと繋がる準備ステップと位置づけられ、自分の研究テーマを深掘りするための思考方法や分析手法を習得していく。具体的には、研究テーマに関連する課題に対して適切な思考・発想法、分析手法を当てはめて考えてみる。それを小グループの中で討議する。これを繰り返すことによって、問題意識・問題の所在を明確化させる。

成果は、グループでレポートを作成し、発表・報告する。

授業運営は、4名程度からなる小グループをベースとする（研究テーマに応じて1学期の小グループを再編成する）。小グループ毎に専任教員が指導にあたる。なお、研究テーマが類似するグループ同士はユニットを組み、ユニット内でお互いの情報を共有し合いながら討議内容の充実を図る（教員も相互に指導し合う）。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ここでは類似グループ3つからなるユニット編成を想定しているが、実際には2つの場合、4つの場合もあり得る。状況に応じて内容がいくらか変わることはある。

## ① イントロダクション

【研究プロポーザル(研究計画書)】

## ②~④ 課題討議1

【思考方法の実践】、【発想法の実践】

## ⑤ ユニット内他教員の指導と他グループ共同討議1

【学際的知見】

【共同討議】

## ⑥~⑧ 課題討議2

【分析手法の実践】

## ⑨ ユニット内他教員の指導と他グループ共同討議2

【学際的知見】

【共同討議】

## ⑩~⑫ 課題討議3

【ライブラリーリサーチ(文献調査)結果】

【フィールドサーベイ結果】

## ⑬~⑭ グループレポートの集約

【体系化スキル】、【プレゼンテーションスキル】

## ⑮ グループレポートの発表

【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポートの成果物、討議に対する貢献度、調査研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



## プロジェクト研究I【夜】

担当者名  
/Instructor

専任教員

履修年次 2年次  
/Year単位 2単位  
/Credits学期 1学期  
/Semester授業形態 演習  
/Class Formatクラス  
/Class対象入学年度  
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
							○	○	○	○	

対象学科  
/Department

【必修】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

1年次のグループ・ディスカッションI、IIでの学習を踏まえ、自らが納得できる研究テーマを最終的に決定して、研究を前進させる。このプロジェクト研究を通じて、課題の発見、課題についての深い理解と分析、課題の解決方向の探索といった能力を培うことを目標とする。

2学期のプロジェクト研究II終了時には、研究レポートまたは論文の成果物提出（いずれも学内発表）を義務付けているが、ここでは研究の中間発表が当面の成果物である。研究指導は、指導教員1名が担当するが、専門内容によっては副指導教員もあてて複数の教員が指導にかかわる体制も整えていく。こうした体制をとることで、学生が幅広い視点から問題探究を行なう学際的方法を身に付けることをめざす。なお、学生はグループ・ディスカッションI、II（1年次）の過程で、2年次のプロジェクト研究では納得のいく指導教員を選定できる仕組みにしている。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

仕事の中で直面している課題について自らが納得できるテーマを決定し、研究に取り組む。

## ① イントロダクション

【研究プロポーザル・グループレポート(グループ・ディスカッションの成果物)】

## ②～③ リサーチ・クエスチョン(研究課題)の検討

【先行研究や理論】

## ④～⑤ 研究方法、推進体制の検討

【分析のフレームワーク】

## ⑥ 副指導教員の指導

【学際的知見】

## ⑦～⑩ 研究の進捗状況発表

【発表と質疑応答】、【討議を繰り返す】

## ⑪ 副指導教員の指導

【学際的知見】

## ⑫～⑭ 研究の中間発表準備、リハーサル

【発表と質疑応答】、【討議を繰り返す】

## ⑮ 研究の中間発表

【研究科内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間の成果物、討議に対する貢献度、研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

## プロジェクト研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 専任教員

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	

対象学科 【必修】 マネジメント研究科 専門職学位課程  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

プロジェクト研究Iの中間成果を積み上げてスパイラル・アップさせるべく、研究テーマの完成をめざす。  
修了時には、研究レポートまたは論文の成果物提出（いずれも学内発表）を義務付けており、公表できる一定水準の品質の確保に努める。単著、共著の別は問わない。  
なお、プロジェクト研究の成果は、学内外における発表会を通じて地域社会へも還元する。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

初回時に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学内発表する研究レポートまたは論文の完成をめざす。  
以下、基本的な授業内容を示す。

- ①～② 中間発表における問題点、改善点の整理  
【中間の成果物】
- ③～④ リサーチ・クエスチョン（研究課題）の再検討  
【先行研究や理論】、【分析のフレームワーク】
- ⑤ 副指導教員の指導  
【学際的知見】
- ⑥～⑩ 研究の進捗状況発表  
【発表と質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑪ 副指導教員の指導  
【学際的知見】
- ⑫～⑭ 研究成果の発表準備、リハーサル  
【発表と質疑応答】、【討議を繰り返す】
- ⑮ 研究成果の最終発表  
【学内発表会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

最終の成果物、討議に対する貢献度、研究の姿勢などをもとにして総合的に評価する

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# マネジメント総論【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

マネジメントは、営利組織であれ非営利組織であれ、その基本原理は共通しており、違いは10パーセントほどに過ぎないといわれている(ドラッカー)。この講義の目的は、マネジメントに関する基本的考え方、哲学をディベートを中心に体得するとともに、マネジメントに携わるプロフェッショナルとしての職業倫理を習得することにある。  
なぜ、現代はマネジメントの時代と呼ばれるのか、マネジメントの果たす社会的役割・機能の理解を通して、その現代的意義を明らかにする。このマネジメントに関するマクロ的理解を踏まえて、組織が目的を有効に達成するマネジメントの最適原理とは何か、を理論と実証分析を通して理解を深める。後半は、経済社会のグローバル化、IT化の進展に伴うマネジメント哲学の変化について明らかにする。

## 教科書 /Textbooks

その都度、指定

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

ジョアン・マグレッタ『なぜマネジメントなのか』(ソフトバンク・パブリッシング社、2003年)  
P・ドラッカー『ネクスト・ソサエティ』(ダイヤモンド社、2002年)  
T・R・パイパー他『ハーバードで教える企業倫理』(生産性出版、1995年)  
梅津光弘『ビジネスの倫理学』(丸善株、2208年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① マネジメントとは何か(1)：営利組織と非営利組織のマネジメント  
【“effectiveness”と“efficiency”】
- ② マネジメントとは何か(2)  
【経験と科学】
- ③ 企業(組織)はだれのものか(1)  
【組織の制度化、ドラッカー】
- ④ 企業(組織)はだれのものか(2)  
【コーポレート・ガバナンス】
- ⑤ コーポレート・シチズンシップとCSR  
【CSR、企業の社会貢献】
- ⑥ 企業倫理  
【社会的機関としての企業、ビジネス倫理】
- ⑦ イノベーションと価値創造  
【創造的破壊】
- ⑧ 日本型経営とは何か  
【日本とアメリカ：収斂と分散】
- ⑨ 日本型経営とは何か  
【成果主義】
- ⑩ リーダーに学ぶ(1)：ジャック・ウェルチのケース  
【価値共有】
- ⑪ リーダーに学ぶ(2)：カルロス・ゴーンのケース  
【コーチング】
- ⑫ IT革命とマネジメント(1)  
【知識社会】
- ⑬ IT革命とマネジメント(2)  
【距離の死、時間の死】
- ⑭ 経営者の資質とは  
【インテグリティ】
- ⑮ 討議とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各テーマについてのディスカッションへの参加度・貢献度を6割、レポートの内容を4割として評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# マネジメント総論【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 経営戦略【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 マネジメント研究科 専門職学位課程

## 授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法、その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって、分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は、経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し、それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。なお、講義の前半に事業戦略を、後半に全社戦略を扱う。授業は、講義を基本とするが、事前に戦略分析に関する小レポートなどを提出してもらい、受講生と討議する時間を設ける予定である。

## 教科書 /Textbooks

特に、指定せず、適宜資料を配布する。(なお、ケースを用いる場合、そのケース代金(1冊千数百円)が追加的に必要になる場合があるので注意されたい)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

奥村昭博『経営戦略』日経文庫  
石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション
- ②戦略とは何か?
- ③戦略論の議論と歴史
- ④事業戦略(業界の構造分析)
- ⑤事業戦略(業界の構造分析)
- ⑥事業戦略(企業の内部分析)
- ⑦事業戦略(企業の内部分析)
- ⑧ケース
- ⑨全社戦略(垂直統合)
- ⑩全社戦略(多角化の論理と種類)
- ⑪全社戦略(PPMとその応用)
- ⑫ケース
- ⑬ビジネスシステム論
- ⑭経営者の役割
- ⑮まとめ

なお、授業の内容は、進捗状況や受講生の興味等に応じて、変更する可能性がある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

発言など授業への寄与度30%、小レポート30%、期末レポート40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# マーケティング【夜】

担当者名 /Instructor 米谷 雅之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

如何に優れた商品やサービスを産み出したとしても、それが市場で販売され、収益の向上につながらなければ、企業にとっては意味がないし、そのような状態が続けば命取りにもなりかねない。販売の過程が商品の「命懸けでの飛躍の過程」と呼ばれるのはそのためであり、それまでの企業の様々な活動は販売の過程で最後の審判を受けることになる。売れるしぐみを如何に創り出していか、まさにマーケティングに軸足を置いた経営が求められることになる。この講義は、ベーシック科目として、マーケティングの基本的な問題を理解することを目的に、受講者による報告や討論をも混じえながら進められる。

## 教科書 /Textbooks

講義資料を配布して進める予定。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

石井淳蔵 (2010年) 『マーケティングを学ぶ』(ちくま新書) 筑摩書房  
 石井・栗木・嶋口・余田 (2004年) 『ゼミナール マーケティング入門』日本経済新聞社  
 米谷雅之 (2001年) 『現代製品戦略論』千倉書房。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① オリエンテーション：講義の概要・講義の進め方など  
 【企業活動とマーケティング】
- ② マーケティング問題の基本認識  
 【現代市場、販売の困難、マーケティングの目的】
- ③ マーケティング志向の経営  
 【Product-Out vs. Market-In、技術志向とマーケティング志向】
- ④ マーケティングの理論的展開  
 【企業と市場、マーケティング相互行為、マーケティング・マネジメント】
- ⑤ マーケティング戦略の展開(1)  
 【企業の競争対応・流通対応・市場対応、マーケティング・ミックス】
- ⑥ マーケティング戦略の展開(2)  
 【戦略的マーケティング、製品ポートフォリオ、競争地位別戦略】
- ⑦ 製品戦略と新製品の開発  
 【製品マネジメント、新製品開発、製品差別化と市場細分化、知覚マップ】
- ⑧ 製品ライフサイクルの戦略的意義  
 【製品ライフサイクル、イノベーションの伝播、製品階層】
- ⑨ 価格戦略と販促(広告)戦略  
 【需要の価格弾力性、プロモーション・ミックス】
- ⑩ チャネル・マネジメント(1)  
 【流通の種類、商業組織とマーケティング、VMS、流通系列化】
- ⑪ チャネル・マネジメント(2)  
 【チャネル管理、チャネル政策の種類、パワー基盤、サプライチェーン】
- ⑫ 顧客関係の構築  
 【顧客関係、顧客満足、関係性マーケティング】
- ⑬ ブランドの構築と維持  
 【ブランドの機能、ブランド構築、ブランド・エクイティ、ブランド・マネジャー】
- ⑭ マーケティングの進化と拡張  
 【マーケティングの拡張、サービス・マーケティング】
- ⑮ 討議とまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業へのコミット度(授業への参加姿勢や参加度)や課題レポート等を5割、期末試験(ないし期末レポート)を5割を目安に、総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

# マーケティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# アカウンティング【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

アカウンティングはビジネスの世界の共通言語である。本講座にあつてはビジネススクールの履修者に期待される水準の財務会計の基礎知識を学ぶ機会が提供される。まずは大学における財務諸表論と重なりあう論点を確認してゆくが、その後は財務諸表分析、さらには企業のディスクロージャー戦略にまで考察を加えてゆく。講義コンテンツにあつては、英文簿記会計領域のリテラシーが得られるよう、デザインされている。

## 教科書 /Textbooks

『Accounting～IFRS 水準の企業開示を理解するための諸論点～』  
(初回の教室にて無償配布)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ロバート・アンソニー / レスリー・パールマン著 西山茂監訳 (2007年) 『アンソニー会计学入門』 東洋経済新報社 (但し購入は任意)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主として以下のコンテンツを、各々モジュールとして積み上げて行く (但し、プレゼンテーションの時間をとる等の事情により、講義順は大きく変わることがある)。

①オリエンテーション：本講座の領域と目的、課題について。

【オリエンテーション】

②企業とアカウンティング：会計の役割と職能について。

【会計の役割と職能】

③GAAP とは何か：US-SFAS とIFRS について。

【GAAP】

④バランスシートの機能について。

【B/S】

⑤P/L の機能について。

【P/L】

⑥キャッシュフロー計算書の作成方法とその機能について。

【キャッシュフロー】

⑦簿記とアカウンティング・サイクルの一巡について。

【アカウンティング・サイクル】

⑧決算修正：アクルール処理とその会計倫理上の限界について。

【アクルール】

⑨ディスクロージャー：脚注情報とMD&A について。

【ディスクロージャー】

⑩情報信頼性の担保方法：監査報告書について。

【監査】

⑪財務諸表分析の基礎的アプローチ方法について。

【財務諸表分析】

⑫年次報告とIR について。

【アニュアルレポート】

⑬隣接領域と意思決定会計への展望について。

【意思決定】

⑭MBA アカウンティングのWrap-Up.

【MBA】

⑮アドバンスド財務会計への展望

【財務会計】

...以上のモジュールを、受講者の意欲とニーズを量りつつ、ウェイト配分を微調整しながら講義する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの質、プレゼンテーションに際しての積極性、ディスカッションに際しての貢献度、期末試験の成績、等を適宜ウェイト付けし、総合的に判断します (評価ウェイト等の詳細は、初回オリエンテーション時にお知らせします)。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。



# アカウンティング【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# ファイナンス【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

第1回～第5回では、コーポレート・ファイナンスの基礎知識と財務諸表、財務指標、投資尺度の見方を説明する。第6回から本格的なファイナンスの内容となるが、第13回までは企業の最適な財務的意思決定を考える上で重要な前提となる株式価値評価、資本コストの考え方を説明し、実際に企業の資本コストや理論株価を推計する練習を行う。第14回、第15回で、それまでに学んだ考え方の応用として、企業の投資決定のあり方を解説する。頻繁に演習（練習問題及びケース・スタディ）を行い、「基礎的な考え方の理解→実践」のプロセスを繰り返すことになる。なお、企業の最適な基本構成については、第9回で触れることとする。

## 教科書 /Textbooks

内田交謹『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 企業の財務行動
  - 【投資決定】【資本構成】【配当政策】【株価】
- ② 財務活動と財務諸表、投資尺度
  - 【ROA】【ROE】【PER】【PBR】
- ③ 資金調達の基本知識
  - 【新株発行】【内部留保】【転換社債・ワラント債】
- ④ 株主還元の基本知識
  - 【配当性向】【配当利回り】【自社株買い戻し】【株式分割】
- ⑤ 演習1
  - 【財務分析】
- ⑥ 現在価値計算
  - 【年金】【フィナンシャル・ライフプランニング】
- ⑦ 株価・債券価格決定の基本理論
  - 【DDM】
- ⑧ 演習2
  - 【株価計算】
- ⑨ DCF法による株式価値評価
  - 【DCF法】【WACC】【企業価値】【負債の節税効果】
- ⑩ 演習3
  - 【DCF法の実践】
- ⑪ 資本コストの概念と企業評価
  - 【資本コスト】【EVA】
- ⑫ ポートフォリオ理論と資本コスト
  - 【ポートフォリオ】【CAPM】
- ⑬ 演習4
  - 【資本コスト推計】
- ⑭ 投資決定1
  - 【NPV】【内部収益率法】
- ⑮ 演習5
  - 【投資決定の実践】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平素のクラスへの貢献度（発言・質問等）30%  
課題の提出 70%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

# ファイナンス【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 人材マネジメント【夜】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察する。組織において、優秀な人材を確保し、人材の能力を引き出し、それを発揮させるための仕組みが人的資源管理である。人という経営資源は、物や金とは違った性質をもつがゆえに、管理が非常に難しくデリケートな経営資源である。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、学術的な理論をベースにしながらも現実の企業における事例も紹介しながら講述する。適宜、受講者が自発的に考えるための時間も設けたい。

## 教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司・平野光俊編(2010)『入門・人的資源管理』中央経済社。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜リーディングスを配布するが、それを必ず事前に読んでくることが求められる。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
- ②企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
- ③組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
- ④職務と組織の設計【分業】【調整】
- ⑤人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】【役割等級制度】
- ⑥雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】【非正規従業員】【雇用ポートフォリオ】
- ⑦キャリア開発と人材育成【キャリア】【OJT】
- ⑧人事考課制度【人事考課】【目標管理】【コンピテンシー】
- ⑨賃金制度【年功賃金】【成果主義】、福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
- ⑩多様な労働者タイプの管理【女性労働者】【高齢労働者】【R&D 技術者】
- ⑪人事制度についての事例紹介(1)
- ⑫人事制度についての事例紹介(2)
- ⑬人事制度についての事例紹介(3)
- ⑭人事制度についての事例紹介(4)
- ⑮講義全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(複数回課す予定).....50%、期末テスト.....50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 組織とリーダーシップ【夜】

担当者名 /Instructor 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程, 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○

## 授業の概要 /Course Description

経営者・管理者の果たす役割・機能の本質は、単にリーダー、マネジャーの仕事の現象的側面のみを記述するだけでは理解できない。その本質は組織理解（組織論）が基礎となつてはじめて把握することが可能となる。近代組織論がマネジメント論の原理論としてとらえられるのは、そのためである。

この講義では、まず、近代組織論から現代組織論に至る理論的系譜をたどりながら、経営者・管理者の機能論・職能論、リーダーシップの本質論をとらえることにする。

後半では、この組織の原理論を基礎に、リーダーシップの形態把握を行う。リーダーシップ論では、認知論などの理論と変革型やメンタリングなど新たな視点、対人スキルについて、そのエッセンスを講義する。また、名経営者のリーダーシップから参考点を見出す。

## 教科書 /Textbooks

講義資料を配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- J.Boyett & T.Boyett, The Guru Guide: The Best Ideas of the Top Management Thinkers,1999 (金井監訳『経営革命 大全』(日経ビジネス人文庫))  
 C. Barnard, The Functions of Executives, 1938 (山本安次郎他訳『経営者の役割』ダイヤモンド社)  
 H. Simon, Administrative Behavior, 1963(松田武彦他訳『経営行動』ダイヤモンド社)  
 R.Lawrence & W. Lorsch, Organization and Environment, 1967 (吉田博訳『組織の条件適応理論』、産能大)  
 H. Mintzberg, Henry Mintzberg on Management, 1975 (Diamond ハーバード・ビジネス・レビュー編集部編訳『H. ミンツバーグ経営論』ダイヤモンド社)  
 Nahavandi,A.,The Art & Science of Leadership,2003 (藤原監訳『実践リーダーシップ学』万来舎)  
 Cialdini,R.B.,Influence: Science & Practice,2001 (社会行動研究会訳『影響力の武器 なぜ人は動かされるのか』誠信書房)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①イントロダクション(齋藤)【経営者職能、近代組織論】
- ②古典的組織論(齋藤)【官僚制組織、科学的管理、人間関係論、管理職能論】
- ③組織の設計とその諸形態(齋藤)【ラインとスタッフ、職能部門制組織、事業部制組織】
- ④近代組織論I(齋藤)【バーナード、組織成立の3要素】
- ⑤近代組織論II(齋藤)【サイモン、意思決定論、S-R図式】
- ⑥現代組織論I(齋藤)【コンテインジェンシー理論、ローレンス=ローシュ】
- ⑦現代組織論II(齋藤)【ネオ・コンテインジェンシー理論、カオス、ゴミ箱理論】
- ⑧現代組織論III(齋藤)【フラット化、コンダクターレス組織、経営革命】
- ⑨リーダーシップの理論I(北)【信頼蓄積理論】、【ハイフェッツの定義】
- ⑩リーダーシップの理論II(北)【状況即応理論】、【認知論】
- ⑪変革型リーダーシップ(北)【コッターのリーダーシップ】、【実践家の持論】
- ⑫メンタリング(北)【プロテジェ】、【メンタリング効果】
- ⑬対人スキルI(北)【説得の逆効果】、【接種理論】
- ⑭対人スキルII(北)【要請技法】、【交渉】、【カウンセリング】
- ⑮討議とまとめ(北・齋藤)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題..40%、討議の貢献度..60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords